

令和 5 年 度

事業報告書



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

福岡県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

はじめに

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、石川県輪島市、志賀町で最大震度7を観測し、石川県、富山県、新潟県及び福井県では甚大な被害が発生いたしました。亡くなられた方に哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

日本赤十字社は、発災後、直ちに本社を中心として全国の都道府県支部が活動を始め、どこよりも「最初から最後まで被災地に寄り添う」との覚悟を持って、支援してまいりました。当県支部も発災直後から福岡赤十字病院の医療スタッフなどで編成した救護班等を現地に派遣し、救護活動を実施するとともに、九州ブロックの代表支部として、九州各県からの救護班等の派遣調整を行うなど、約2か月間にわたり切れ目のない活動を展開しました。また、多くの個人・団体からの心温まる「義援金」をお預かりし、本社を通じ、被災地に送り続けています。

災害救護活動は、日本赤十字社の重要な活動です。今後も予測される大規模地震や豪雨災害の発生に備え、日ごろから救護員に対する訓練を実施し、県民の皆様には、講習や防災セミナーを通じて防災・減災の意識に対する向上に努めてまいります。

国際活動では、福岡赤十字病院の医師や看護師を各国へ派遣するとともに、武力衝突が激化している「イスラエル・ガザ人道危機救援金」をはじめとする支援活動にも取り組みました。

一方、新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月に2類相当から5類に感染症法上の位置づけが変更になりました。これにより、年間を通じて感染症拡大前とほぼ同様の事業を実施することができ、県民の皆様に対し、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」ための活動を積極的に行うことができました。

令和6年度も引き続き、赤十字活動に対するご理解とご協力を得られるよう、各種事業に取り組んでまいりますので、今後もより一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

目 次

I 事業実施状況

| | | |
|----|---------------|----|
| 1 | 国内災害救護 | 1 |
| 2 | 救急法等の講習 | 13 |
| 3 | 青少年赤十字 | 18 |
| 4 | 国際活動 | 24 |
| 5 | 赤十字奉仕団 | 27 |
| 6 | 活動資金の募集 | 32 |
| 7 | 広報 | 35 |
| 8 | 看護師等の養成 | 39 |
| 9 | 医療事業 | 41 |
| 10 | 血液事業 | 47 |
| 11 | 社会福祉事業 | 53 |

II 付 表

| | | |
|---|--------------|----|
| 1 | 主な行事 | 58 |
| 2 | 支部管内施設 | 59 |
| 3 | 支部機構 | 60 |
| 4 | 支部役員名簿 | 61 |
| 5 | 支部沿革 | 62 |

I 事業実施状況

1 国内災害救護

日本赤十字社は、災害救助法や災害対策基本法などで、国や地方公共団体の救護活動に協力することが義務付けられており、赤十字の人道的任務として「医療救護」「こころのケア」「救援物資の備蓄と配分」「血液製剤の供給」「義援金の受付と配分」など多岐にわたる災害救護活動を行っています。

令和5年度は、令和6年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」において、全国の赤十字各支部が連携し、被災者支援のため、現地に医療救護班等を派遣し救護活動を展開しました。当支部からも医療救護班やこころのケア班を現地に派遣し、避難所アセスメントや巡回診療、心理的ストレスへの支援活動を行いました。

また、7月7日からの局地的な大雨により、久留米市を中心とする筑後地域で多大な被害が発生しましたが、当支部では、福岡県災害対策本部へのリエゾンの派遣や被災地への救援物資の搬送及び看護師派遣を行いました。

1. 災害救護活動の体制及び整備

(1) 救護員の体制

災害発生時において被災地の医療の空白を埋めるため、迅速に救護班を派遣して被災者や傷病者を救護する体制として、県内に常備救護班を16班編成し、訓練を受けた職員108人を常備救護班員として登録しています。

常備救護班の編成状況

令和5年4月1日現在

| 施設名 | 班数 | 常備救護班員登録数 | | | | | 計 |
|---------|----|-----------|------|-----|-----|----|-----|
| | | 医師 | 看護師長 | 看護師 | 薬剤師 | 主事 | |
| 福岡赤十字病院 | 12 | 12 | 12 | 24 | 12 | 24 | 84 |
| 今津赤十字病院 | 2 | 2 | 2 | 4 | 0 | 4 | 12 |
| 嘉麻赤十字病院 | 2 | 2 | 2 | 4 | 0 | 4 | 12 |
| 計 | 16 | 16 | 16 | 32 | 12 | 32 | 108 |

※常備救護班編成基準 医師1人・看護師長1人・看護師2人・主事（事務）2人 計6人
福岡赤十字病院の救護班のみ薬剤師1人を加えて編成しています。

(2) 災害救護の実施

ア. 令和6年能登半島地震

日本赤十字社は、令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震に対し、被害の大きさや活動の長期化を鑑み、全国の各支部から医療救護班等を派遣しました。輪島市・珠洲市・七尾市を中心に避難所アセスメント（避難所の環境改善に向けた状況調査）や巡回診療、病院支援を行いました。当県支部を含む九州ブロック（九州八県）は、七尾市を中心に活動しました。

また、避難の長期化に伴い、被災者や行政職員などの支援者へのこころの安心感を築いていく心理的な支援を行うため、医療救護班とは別に、こころのケア班を派遣しました。当県支部を含む九州ブロック（九州八県）は、七尾市の自治体職員に対しこころのケア※を行いました。

※こころのケアの活動内容

健康状態や悩みなどの傾聴、ホットタオルの配付、リラクゼーション（足浴・ハンドケア・肩ケア）

【医療救護班派遣状況（班別）】

| 班 | 施設名 | 派遣人員 | | | | | | | 派遣期間 |
|---|--------------------|------|------|-----|-----|----|-------|---|---------------------|
| | | 医師 | 看護師長 | 看護師 | 薬剤師 | 主事 | 連絡調整員 | 計 | |
| 1 | 福岡赤十字病院 福岡県支部 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 2 | 8 | 令和6年1月4日 ～1月8日 |
| 2 | 福岡赤十字病院 福岡県支部 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 9 | 令和6年1月7日 ～1月11日 |
| 3 | 福岡赤十字病院 今津赤十字病院 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 0 | 7 | 令和6年1月10日 ～1月14日 |
| 4 | 福岡赤十字病院 福岡県支部 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 1 | 7 | 令和6年1月12日 ～1月16日 |
| 5 | 今津赤十字病院 大寿園 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 1 | 7 | 令和6年1月20日 ～1月24日 |
| 6 | 福岡赤十字病院 やすらぎの郷 | 2 | 1 | 2 | 0 | 2 | 1 | 8 | 令和6年1月31日 ～2月5日 |

【医療救護班派遣状況（施設別）】

| 施設名 | 班数 | 派遣人員 | | | | | | |
|---------|----|------|------|-----|-----|----|-------|----|
| | | 医師 | 看護師長 | 看護師 | 薬剤師 | 主事 | 連絡調整員 | 計 |
| 福岡赤十字病院 | 5班 | 6 | 5 | 10 | 2 | 9 | 0 | 32 |
| 今津赤十字病院 | 1班 | 1 | 1 | 2 | 0 | 3 | 0 | 7 |
| 大寿園 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| やすらぎの郷 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 福岡県支部 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 5 |
| 合 計 | 6班 | 7 | 6 | 12 | 2 | 12 | 7 | 46 |



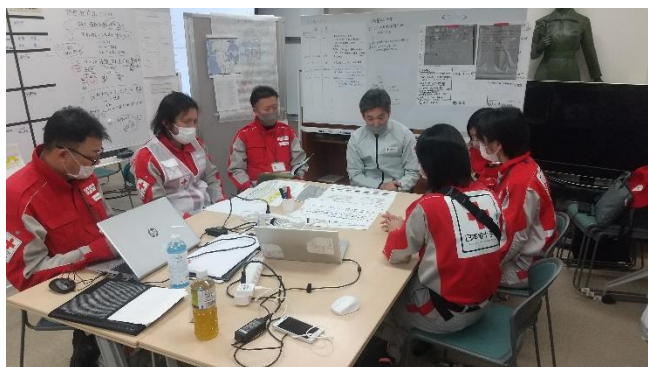
七尾市の避難所で巡回診療する医師



七尾市の避難所で健康観察する看護師

【日赤災害医療コーディネートチーム派遣状況】

| 施設名 | 派遣人員 | | | 派遣期間 |
|--------------|------|----|---|----------------|
| | 医師 | 主事 | 計 | |
| 福岡赤十字病院 | 1 | 0 | 1 | 令和6年1月30日～2月3日 |
| 福岡県赤十字血液センター | 0 | 1 | 1 | |
| 福岡県支部 | 0 | 1 | 1 | |



石川県支部災害対策本部での打合せ



医療救護班から活動報告を受ける医師

【こころのケア班派遣状況】

| 施設名 | 派遣人員 | | | 派遣期間 |
|---------|------|----|---|----------------|
| | 看護師 | 主事 | 計 | |
| 今津赤十字病院 | 3 | 1 | 4 | 令和6年2月7日～2月13日 |



七尾市職員へ傾聴を行う看護師



リラクゼーションルームを開設する救護員

【病院支援派遣状況】

| 施設名 | 派遣人員 | | 派遣先 | 派遣期間 |
|---------|------|---|--------|-----------------|
| | 看護師 | 計 | | |
| 福岡赤十字病院 | 1 | 2 | 市立輪島病院 | 令和6年1月27日～2月1日 |
| | 1 | | | 令和6年2月16日～2月21日 |
| 嘉麻赤十字病院 | 1 | 2 | | 令和6年1月22日～1月27日 |
| | 1 | | | 令和6年3月21日～3月26日 |

イ. 令和5年7月7日からの大雨災害

7月7日から7月10日にかけて、梅雨前線が西日本から東北地方付近に停滞、10日に福岡県、佐賀県、大分県において線状降水帯が発生し、大雨特別警報が発令されました。

当県支部は、多大な被害を受けた久留米市、うきは市、みやま市、広川町へ救援物資を送達しました。また、東峰村には看護師等の救護員を派遣し、被災者や現地で活動するボランティアの健康観察を実施しました。

【救援物資の送達】

| 物資名 | 数量 | 送達先 |
|--------|-------|------|
| 毛布 | 50 枚 | うきは市 |
| タオルケット | 50 枚 | 久留米市 |
| | 250 枚 | うきは市 |
| | 10 枚 | 広川町 |
| 緊急セット | 300 組 | 久留米市 |
| | 90 組 | うきは市 |
| | 132 組 | 広川町 |
| 安眠セット | 180 組 | うきは市 |
| タオルセット | 300 組 | 久留米市 |
| | 300 組 | うきは市 |
| | 140 組 | 広川町 |
| 医薬品セット | 300 組 | 久留米市 |
| | 120 組 | うきは市 |
| | 130 組 | 広川町 |

【救護員の派遣】

| 施設名 | 派遣延人員 | | |
|---------|-------|----|----|
| | 看護師 | 主事 | 計 |
| 福岡赤十字病院 | 7 | 7 | 14 |
| 今津赤十字病院 | 1 | 1 | 2 |
| 嘉麻赤十字病院 | 1 | 1 | 2 |
| 福岡県支部 | 2 | 2 | 4 |
| 合 計 | 11 | 11 | 22 |



被災自治体へ救援物資の送達



被災地での巡回（健康観察）

（３）救護員の訓練

赤十字の救護員として必要な基礎知識や技術を学び、災害が発生した現場において、救護活動が迅速かつ的確に行えるよう、日本赤十字社救護規則第 13 条に基づき、災害救護訓練を実施しています。

令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 類に引き下げられたことに伴い、共通課程を除くすべての訓練を実動形式で実施し、救護員の育成に努めました。

ア. 支部主催訓練

| 訓練名 | 開催日 | 開催場所 | 開催方式 |
|-------------------------|------------------------------|-------------|--------|
| 救護員育成訓練（共通課程） | 5 月 15 日（月） ～ 5 月 26 日（金） | 管内施設 | 動画視聴形式 |
| 救護主事基礎訓練 | 6 月 15 日（木） | 日本赤十字社福岡県支部 | 実働形式 |
| 救護主事応用訓練 | 6 月 16 日（金） | 久留米赤十字会館 | 〃 |
| 救護医師、救護看護師 基礎・応用合同訓練 | 6 月 29 日（木） | 日本赤十字社福岡県支部 | 〃 |
| 支部救護班総合訓練 | 9 月 29 日（金） | 久留米赤十字会館 | 〃 |

イ. 行政等主催訓練

| 訓練名 | 開催日 | 開催場所 | 開催方式 |
|--------------------------------|-------------|------|------|
| 遠賀川総合水防演習 （主催：国土交通省九州地方整備局） | 5 月 14 日（日） | 飯塚市 | 実働形式 |
| 福岡県総合防災訓練 | 5 月 28 日（日） | 朝倉市 | 〃 |
| 福岡空港 航空機事故対策部分訓練 | 8 月 28 日（月） | 福岡空港 | 図上形式 |

| | | | |
|----------------------------------|-------------------------------|-------|------|
| 福岡市災害対策本部図上訓練 | 11 月 21 日（火） | 福岡市役所 | 〃 |
| 緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練 （主催：総務省消防庁） | 11 月 25 日（土） ～11 月 26 日（日） | 飯塚市 | 実働形式 |
| 福岡県国民保護図上訓練 | 1 月 25 日（木） | 福岡県庁 | 〃 |



DRASH テント設営訓練の様子
（救護主事応用訓練）



傷病者受入訓練の様子
（福岡県支部救護班総合訓練）



救護所での傷病者受入訓練の様子
（令和 5 年度遠賀川総合水防演習）



消防職員と共同で傷病者対応を行う様子
（緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練）

（４）九州八県支部合同災害救護訓練

本訓練では、災害救護業務担当者を中心に構成される九州八県支部合同災害救護訓練運営委員会で訓練実施計画の企画調整を行い、１）支部災害対策本部の設置・運営・受援準備、２）各県支部の支援要員を含めた支部災害対策本部の運営、３）全社統合情報システム等を活用した情報共有の３項目を訓練主眼とし、コントローラーによる状況付与のもと実働訓練を実施しました。

開催日：令和 5 年 12 月 3 日（日）～ 4 日（月）

場 所：日本赤十字社鹿児島県支部

参加者：40 名（内訳：福岡県支部 3 名、九州他県支部 35 名、本社救護課 2 名）



情報付与を行うコントローラー



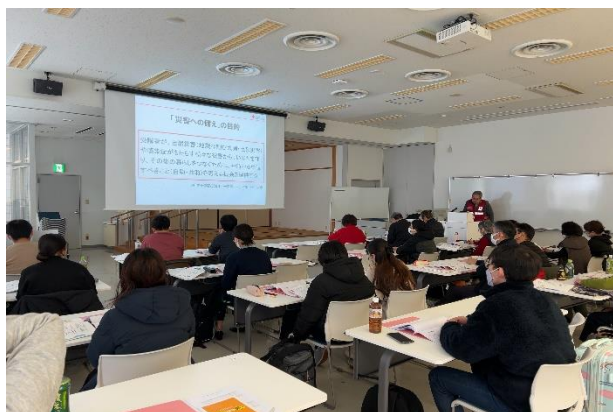
訓練終了後訓練内容について検討

(5) 赤十字防災セミナーの実施

日本赤十字社では、人々のいのちをまもるために、地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高める「防災教育事業（通称：赤十字防災セミナー）」を展開しています。

令和5年度は、新カリキュラム（家具安全対策ゲーム・ひなんじょたいけん）を導入しました。また、防災教育事業指導者養成研修を長崎県支部、大分県支部と合同で実施し、新たに26名の指導者を養成しました。

| 開催日 | 受講団体 | 対象 | 人数 | 内容 |
|--------|---------------------|----------|------|------------|
| 5月15日 | 新宮町食生活改善推進会 | 町内会・自治会等 | 20名 | 災害への備え |
| 6月19日 | 飯塚市菰田地区まちづくり協議会 | 町内会・自治会等 | 36名 | 家具安全対策ゲーム |
| 7月19日 | 久留米市女性防火クラブ連合会 | 町内会・自治会等 | 26名 | 災害への備え |
| 8月6日 | 日赤福岡県支部奉仕団 | 赤十字関係者 | 14名 | 家具安全対策ゲーム |
| 9月9日 | 宗像市広陵台1丁目自治会 | 町内会・自治会等 | 27名 | 災害エスノグラフィー |
| 11月21日 | 夜臼2丁目公民館 | 町内会・自治会等 | 22名 | 災害への備え |
| 11月22日 | 日赤福岡県支部防災ボランティア会 | 赤十字関係者 | 8名 | ひなんじょたいけん |
| 11月19日 | 糸島市井原行政区自主防災会 | 町内会・自治会等 | 30名 | 災害への備え |
| 11月20日 | 久留米市犬塚校区まちづくり振興会 | 町内会・自治会等 | 12名 | 災害エスノグラフィー |
| 11月22日 | 福岡県支部管内施設職員 | 赤十字関係者 | 5名 | 災害への備え |
| 11月25日 | 全日通労働組合福岡支部 | 企業／団体 | 100名 | 〃 |
| 11月26日 | 宮若市自治会 中ブロック | 町内会・自治会等 | 56名 | 〃 |
| 12月11日 | 久留米市山本地区民生委員児童委員協議会 | 町内会・自治会等 | 28名 | 〃 |
| 11月23日 | 飯塚市鯉田地区まちづくり推進協議会 | 町内会・自治会等 | 22名 | 家具安全対策ゲーム |
| 1月26日 | 飯塚市颯田まちづくり協議会 | 町内会・自治会等 | 10名 | 災害への備え |
| 2月10日 | 日赤福岡県支部防災ボランティア会 | 赤十字関係者 | 13名 | 災害図上訓練 |
| 2月17日 | 新宮町ジュニアリーダー | 町内会・自治会等 | 17名 | 災害への備え |



防災教育事業指導者養成研修の様子



新カリキュラムの導入による指導者研修の様子

2. 救援物資の配付及び備蓄状況

県内はもとより、隣接県等における広域災害時に備えて、支部救護倉庫、久留米赤十字会館、福岡県赤十字血液センター北九州事業所などに救援物資を備蓄しています。

令和5年度に発生した災害に対して、次のとおり救援物資を配付しました。

ア. 地区・分区及び他県支部への配付状況

令和6年3月31日現在

| 毛布（枚） | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|-------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 春日市 | 10 | | | | | | | | | | | | 10 |
| 大川市 | | 10 | | | | | | | | | | | 10 |
| うきは市 | | | | 50 | | | | | | | 50 | | 100 |
| 柳川市 | | | | | 10 | | | | | | | | 10 |
| 筑紫野市 | | | | | 10 | | | | | | | | 10 |
| 八女市 | | | | | | | 40 | | | | | | 40 |
| 大牟田市 | | | | | | | | 20 | | | | | 20 |
| 宗像市 | | | | | | | | | 50 | | | | 50 |
| 久留米市 | | | | | | | | | | | 20 | | 20 |
| 計 | 10 | 10 | 0 | 50 | 20 | 0 | 40 | 20 | 50 | 0 | 70 | 0 | 270 |

| 緊急セット（組） | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----------|----|----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 大川市 | | 6 | | | | | | | | | | | 6 |
| 小郡市 | | 12 | | | | | | | | | | | 12 |
| 久留米市 | | | | 300 | | | | | | | | | 300 |
| うきは市 | | | | 90 | | | | | | | | | 90 |
| 広川町 | | | | 132 | | | | | | | | | 132 |
| みやま市 | | | | 6 | | | | | | | | | 6 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|--------|---|----|---|-----|----|---|---|---|----|----|---|---|-----|
| 筑後市 | | | | 6 | | | | | | | | | 6 |
| 柳川市 | | | | | 12 | | | | | | | | 12 |
| 筑紫野市 | | | | | 6 | | | | | | | | 6 |
| 福岡市東区 | | | | | | | | | 12 | | | | 12 |
| 福岡市博多区 | | | | | | | | | 12 | | | | 12 |
| 大牟田市 | | | | | | | | | | 12 | | | 12 |
| 計 | 0 | 18 | 0 | 534 | 18 | 0 | 0 | 0 | 24 | 12 | 0 | 0 | 606 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|----|----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| タオルセット（組） | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
| 久留米市 | | | | 300 | | | | | | | 40 | | 340 |
| うきは市 | | | | 300 | | | | | | | | | 300 |
| 広川町 | | | | 140 | | | | | | | | | 140 |
| 大牟田市 | | | | | | | | 20 | | | | | 20 |
| 福岡市南区 | | | | | | | | | | 20 | | | 20 |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 740 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 20 | 40 | 0 | 820 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|----|----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 医薬品セット（組） | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
| 大川市 | | 10 | | | | | | | | | | | 10 |
| 宮若市 | | 20 | | | | | | | | | | | 20 |
| 久留米市 | | | | 300 | | | | | | | 10 | | 310 |
| うきは市 | | | | 120 | | | | | | | | 20 | 140 |
| 広川市 | | | | 130 | | | | | | | | | 130 |
| 筑後市 | | | | 10 | | | | | | | | | 10 |
| 柳川市 | | | | | 20 | | | | | | | | 20 |
| 筑紫野市 | | | | | 10 | | | | | | | | 10 |
| 福岡市東区 | | | | | | | | | 10 | | | | 10 |
| 福岡市博多区 | | | | | | | | | 10 | | | | 10 |
| 福岡市南区 | | | | | | | | | | 10 | | | 10 |
| 計 | 0 | 30 | 0 | 560 | 30 | 0 | 0 | 0 | 20 | 10 | 10 | 20 | 680 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|----|----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| タオルケット（枚） | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
| 久留米市 | | | | 50 | | | | | | | | | 50 |
| うきは市 | | | | 250 | | | | | | | | | 250 |
| 広川町 | | | | 10 | | | | | | | | | 10 |
| 筑紫野市 | | | | | 50 | | | | | | | | 50 |
| 沖縄県支部 | | | | | | | 100 | | | | | | 100 |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 310 | 50 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 460 |

イ. 備蓄状況

令和6年3月31日現在

| 物資名 | 前年度繰越 | 受 入 | 配分数 | 在庫数 |
|------------|--------|-----|-----|--------|
| 毛布 (枚) | 16,321 | 0 | 249 | 16,088 |
| 緊急セット (組) | 5,744 | 0 | 820 | 4,924 |
| タオルセット (組) | 5,315 | 0 | 912 | 4,403 |
| 医薬品セット (組) | 2,365 | 0 | 824 | 1,541 |
| タオルケット (枚) | 9,633 | 0 | 763 | 8,870 |
| 安眠セット (組) | 2,916 | 0 | 504 | 2,412 |

※在庫数は、地区・区分置保管数含む

3. 災害義援金受付状況（福岡県支部受付分）

国内で甚大な被害が生じた場合に災害義援金の募集を開始し、被災地に設置される義援金配分委員会に全額を届けます。

令和5年度は、令和5年7月7日から的大雨災害をはじめとする以下の義援金を引き続き受け付けました。

令和5年4月1日～令和6年3月31日

| 義援金名 | 金 額 (円) |
|---------------------|-------------|
| 令和5年5月能登地方地震災害義援金 | 464,414 |
| 令和5年台風第2号等大雨災害義援金 | 103,369 |
| 令和5年6月30日から的大雨災害義援金 | 265,388 |
| 令和5年7月7日から的大雨災害義援金 | 145,355,332 |
| 令和5年台風第6号災害義援金 | 7,033 |
| 令和5年台風第13号災害義援金 | 32,388 |
| 令和6年能登半島地震災害義援金 | 99,603,369 |

4. 臨時救護

医療救護を必要とする公共性の高い行事、式典等における傷病者の発生に備えて初期救護を行うため、救護員を派遣しています。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことにより、多くの行事が再開されました。主催者には感染症対策を十分に実施していただいたうえで、管内施設の医師・看護師等を派遣しました。

ア. 臨時救護実績

| No. | 救護名 | 場所 | 期日 | 施設名・人員 | 受診者数 |
|-----|------------------------------|-----------------------------|------------------------|--|------|
| 1 | 第62回福岡市民の祭り 博多どんたく港まつり | 福岡市役所 どんたく広場 (明治通り沿い) | 5月2日(火) ～5月4日(木) | 福岡(看2) やすらぎ(看1) 今津(看1) 大寿(看1) 豊寿(看1) | 9名 |
| 2 | 春季慰霊大祭 | 福岡県護国神社 | 5月3日(水) 5月4日(木) | 福岡(看2) | 0名 |
| 3 | 福岡市戦没者合同追悼式 | 福岡市役所 | 6月19日(月) | 福岡(看1) | 0名 |
| 4 | 令和5年異年齢交流で育て！ 青少年育成キャンプ | 諫早青少年自然の家 | 8月2日(水) ～8月6日(日) | 福岡(看2) | 40名 |
| 5 | 青少年赤十字リーダーシップ・ トレーニングセンター | 夜須高原青少年自然の家 | 8月3日(木) ～8月5日(土) | 今津(看1) | 4名 |
| 6 | 令和5年度福岡県戦没者追悼式 | 福岡県立福岡武道館 | 8月15日(火) | 福岡(医1、看1) | 1名 |
| 7 | 未来子どもチャレンジ TAKE OFF DAY | 福岡国際センター | 8月16日(水) | 福岡(看2) | 2名 |
| 8 | 第42回春日市少年の船 | 沖縄本島 | 8月17日(木) ～8月21日(月) | 福岡(看1) | 20名 |
| 9 | 第51回在宅肢体不自由児等 「山の療育キャンプ」 | 福岡県立社会教育総合センター | 8月22日(火) | 嘉麻(看1) | 1名 |
| 10 | インリーダー研修会 | 夜須高原青少年自然の家 | 9月16日(土) ～9月18日(月祝) | 今津(看1) | 7名 |
| 11 | 県民スポーツ大会 バスケットボール競技 | 福岡市立南体育館 | 9月23日(土) | 福岡(看1) | 2名 |
| 12 | 県民スポーツ大会 弓道競技 | 博多の森弓道場 | 9月24日(日) | 福岡(看1) | 0名 |
| 13 | 第28回福岡市障がい者スポーツ大会 | 東平尾公園 博多の森陸上競技場 | 9月30日(土) | 嘉麻(看1) | 0名 |

| | | | | | |
|----|-------------------------------|------------|-----------------------|--|------|
| 14 | 秋季慰霊大祭 | 福岡県護国神社 | 10月8日(日) 10月9日(月祝) | 福岡(看2) | 1名 |
| 15 | 福岡県伐倒技能選手権 | 久留米市 | 11月2日(木) | 嘉麻(看1) | 0名 |
| 16 | 西区スポーツフェスタ 2023 | 今津運動公園 | 10月22日(日) | 今津(看1) | 2名 |
| 17 | 地下鉄フェスタ | 橋本車両基地 | 10月22日(日) | 今津(看1) | 3名 |
| 18 | 福岡マラソン 2023 | 福岡市 糸島市 | 11月12日(日) | 福岡(医3、看6、理1) やすらぎ(看1) 今津(看1) 支部(主4) | 39名 |
| 19 | 令和5年度水源の森づくり学習活動 | 四王寺県民の森 | 11月23日(木祝) | やすらぎ(看1) | 0名 |
| 20 | 第28回福岡市障がい者スポーツ大会(レクリエーション大会) | 福岡市総合体育館 | 11月25日(土) | 福岡(看1) | 1名 |
| 21 | 福岡県日赤紺綬会第63回総会 | 福岡市 | 11月28日(火) | 福岡(看1) | 0名 |
| 22 | ふくおか“きずな”フェスティバル | クローバープラザ | 2月18日(日) | 福岡(看1) | 0名 |
| 計 | | | | 派遣人員 47名 | 132名 |

イ. 臨時救護派遣救護員実績

| 施設名 | 医師 | 看護師 | 主事 | 計 |
|--------------|----|-----|----|----|
| 福岡赤十字病院 | 4 | 24 | 1 | 29 |
| 今津赤十字病院 | 0 | 6 | 0 | 6 |
| 嘉麻赤十字病院 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| 大寿園 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| やすらぎの郷 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| 豊寿園 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 福岡県赤十字血液センター | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字社福岡県支部 | 0 | 0 | 4 | 4 |
| 計 | 4 | 38 | 5 | 47 |

2 救急法等の講習

赤十字が行う講習は、身近な人を救うためのとっさの手当や日常生活での事故防止をはじめ、乳幼児から高齢者に至るまで幅広いライフステージに応じた健康安全に関する知識や技術の普及を行っています。

令和5年度は、5月8日に新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行された後、救命や事故防止に関する講習ニーズの高まりから依頼件数が増加し、コロナ禍前の状況に回復する実績となりました。（総計451回14,160人）

また、新たな講習指導員の確保のため、救急法と幼児安全法の指導員養成講習を開催し、今後の講習普及に携わる新規指導員が計20人誕生しました。

さらに、地域包括ケアの推進に向けて、当県支部と県内にある赤十字の医療・福祉施設の担当者会議を開催し、地域貢献の取り組みの共有と担当者間の関係構築を行いました。

1. 講習実績（総計451回14,160人）

（1）救急法

病気やけが、災害から自分自身を守るとともに、けが人や急病人を正しく救助して医師または救急隊などに引き継ぐまでの救命手当（心肺蘇生、AEDによる電気ショック、気道異物除去等）や応急手当（急病の対応、止血の仕方、三角巾の使い方、骨折の固定方法等）の知識や技術を普及することを目的に、地域や企業、学校を中心に実施しました。

【令和5年度を含む過去5年間の実施状況】

| 種 別 | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|-------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 基礎講習 | 回数 | 29 | 3 | 27 | 37 | 36 |
| | 人数 | 864 | 102 | 429 | 896 | 940 |
| 救急員 養成講習 | 回数 | 14 | 0 | 3 | 19 | 19 |
| | 人数 | 405 | 0 | 28 | 399 | 442 |
| 短期講習 | 回数 | 214 | 77 | 113 | 162 | 186 |
| | 人数 | 8,598 | 1,864 | 4,587 | 5,634 | 6,505 |
| 計 | 回数 | 257 | 80 | 143 | 218 | 241 |
| | 人数 | 9,867 | 1,966 | 5,044 | 6,929 | 7,887 |



心肺蘇生と AED の説明



三角巾によるきずの手当

(2) 水上安全法

水の事故から生命を守り、泳ぎの基本と自己保全、溺者の救助、救命・応急手当等、水難救助に関する総合的な知識や技術を普及することを目的に、地域や学校を中心に実施しました。

令和5年度においても、児童・生徒の着衣状態で起きる水の事故を未然に防ぐため、福岡市教育委員会と協働して教職員を対象とした着衣泳体験指導を行う短期講習を実施しました。

【令和5年度を含む過去5年間の実施状況】

| 種 別 | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|---------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 救助員 I 養成講習 | 回数 | 5 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 人数 | 67 | 0 | 0 | 0 | 34 |
| 短期講習 | 回数 | 66 | 2 | 7 | 24 | 34 |
| | 人数 | 4,646 | 23 | 413 | 682 | 2,173 |
| 計 | 回数 | 71 | 2 | 7 | 24 | 36 |
| | 人数 | 4,713 | 23 | 413 | 682 | 2,207 |



レスキューチューブによる救助の演習



浮き具を使った救助の演習

(3) 健康生活支援講習

高齢者を健やかに事故なく過ごすために必要な知識や技術、高齢者自立支援に必要な介護技術等を普及することを目的に、地域や社会福祉協議会、学校を中心に実施しました。

【令和5年度を含む過去5年間の実施状況】

| 種 別 | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|-------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 支援員 養成講習 | 回数 | 3 | 1 | 2 | 6 | 5 |
| | 人数 | 20 | 8 | 24 | 54 | 62 |
| 短期講習 | 回数 | 93 | 42 | 36 | 52 | 52 |
| | 人数 | 2,888 | 953 | 762 | 1,194 | 1,809 |
| 計 | 回数 | 96 | 43 | 38 | 58 | 57 |
| | 人数 | 2,908 | 961 | 786 | 1,248 | 1,871 |



ホットタオルの作成体験



車椅子の操作体験

(4) 幼児安全法

子どもが家庭や地域で健やかに育っていくよう、子どもの成長・発達に伴う事故の予防と急病の対応、万一に備えての救命・応急手当の知識や技術を普及することを目的に、地域の子育て支援センターや保育所、幼稚園を中心に実施しました。

【令和5年度を含む過去5年間の実施状況】

| 種 別 | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|-------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 支援員 養成講習 | 回数 | 11 | 0 | 0 | 3 | 9 |
| | 人数 | 125 | 0 | 0 | 50 | 124 |
| 短期講習 | 回数 | 109 | 51 | 64 | 101 | 108 |
| | 人数 | 1,762 | 631 | 1,070 | 2,064 | 2,071 |
| 計 | 回数 | 120 | 51 | 64 | 104 | 117 |
| | 人数 | 1,887 | 631 | 1,070 | 2,114 | 2,195 |



乳幼児の一次救命処置（心肺蘇生・AED）



乳幼児の一次救命処置（気道異物除去）

2. 指導員養成講習の開催

赤十字の使命を理解し、十分な知識と技術を持った指導力のある実働的な指導員の養成を図ることを目的として、救急法並びに幼児安全法の指導員養成講習を開催しました。

各講習で必要な知識や技術を、“人に教える立場”として、どのように伝えるのかを学び、考え、実践しながら、5日間の指導員養成講習を終えました。

健康安全と赤十字の普及を共に行っていく新たな救急法指導員が11人、幼児安全法指導員が9人誕生しました。



救急法新任指導員（11人）



幼児安全法新任指導員（9人）

3. 地域包括ケアの推進

地域包括ケアの推進に向けて、当県支部と県内にある赤十字の病院や特別養護老人ホームの施設担当者との会議を開催し、医療や福祉の分野で取り組んでいる地域貢献活動の共有と今後の事業展開に関わる意見交換、担当者間の関係構築を行いました。

また、地域における高齢者支援を目的に、当県支部及び県内赤十字施設が所在する地域の中学校区内にある小、中学校の児童・生徒を対象に施設と連携し、福祉体験学習（高齢者疑似体験、杖・アイマスク体験、車椅子体験）を実施しました。



医療・福祉施設との担当者会議（WEB）



福祉体験学習として高齢者疑似体験

3 青少年赤十字

青少年赤十字は、将来を担う青少年に「命の大切さと人間の尊厳」を伝えるために「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の世界共通の実践目標と、「気づき、考え、実行する」という態度目標のもと、各加盟校（園）の先生が指導者となり、学校教育の現場において様々な活動を展開しています。

1. 青少年赤十字活動の活性化

（1）青少年赤十字の活動支援

子供たちの自ら学び、自ら考える力の育成に役立つ出前授業を行い、加盟校の活動を支援しました。

ア. 学校等からの依頼により職員を派遣した講習や行事

支部見学等の受入、総合的な学習の時間や加盟校の学内安全講習等において、救急法や水上安全法をはじめとした出前授業の講師派遣を行いました。

| 内 容 | 対 象 者 | 回数（対象者数） | 備 考 |
|--|------------------------------|--------------|--|
| 加盟登録式・更新式 | 保・幼・小・中・高等学校 メンバー、指導者 | 45回（17,993名） | メンバーとしての自覚を新たに するため毎年学校毎に実施。 |
| 救急法、水上安全法（着衣泳） 幼児安全法 | 保・幼・小・中・高等学校 メンバー、指導者、保護者 | 202回（7,799名） | 救急法短期講習、水上安全法な ど、加盟校および未加盟校を含ん だ回数及び対象者数を掲載。 |
| 青少年赤十字サポート・プログラム 防災学習や災害時に役立つ体験 非常食体験や福祉教育 | 小・中・高等学校 メンバー、指導者、保護者 | 17回（2,339名） | 赤十字職員をゲストティーチャー として派遣。 |



小学校での加盟登録更新式



中学校での救急法講習

イ. 青少年赤十字研究推進校指定

令和5～7年度 大野城市立月の浦小学校（発表予定年度 令和7年度）

研究主題 「主体的に考えをつくる算数科学習」 ～効果的な振り返り活動を通して～

ウ. 青少年赤十字活動実践校

県内の青少年赤十字加盟校（園）の中から、特色ある活動を実践している学校（園）に活動助成金（奨励金）を交付し、同校（園）の取り組みを支援すると共に、他校（園）への情報提供及び県内の青少年赤十字活動の振興拡充を図っています。

令和5年度の実践校（4校）

| 学校名 | 主題名・副題名 |
|--------------------------|--|
| 福岡県立糸島高等学校 | 地域とともに共生社会を築く糸高 SDG s 活動 ～JRC 委員会の活動と生徒会活動の取り組みをととして～ |
| 学校法人大和学園 大和青藍高等学校 | 主として献血活動（献血の学習会、献血活動他） |
| 北九州市立萩ヶ丘小学校 | 中庭他美化大作戦 ～環境委員会 SDGs の取組を通して～ |
| 学校法人嶋田学園 認定こども園 愛宕幼稚園 | 自ら安全に気を付けて行動できる子どもの育成 ～0～5歳が全員参加で行う避難訓練を通して～ |

（2）防災教育の推進

青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」の活用度向上や防災教育の推進のため、学校において、防災教育を行いました。

学校等における防災教室実施状況

| 学校名 | 対象人数 | 学校名 | 対象人数 |
|------------|------|------------|-----------|
| みやま市立瀬高中学校 | 214 | 福岡市立東光小学校 | 59 |
| 福岡市立東光小学校 | 33 | 志免町立志免西学校 | 180 |
| 太刀洗町立大堰小学校 | 10 | 福岡市立日佐小学校 | 80 |
| うきは市立山春小学校 | 40 | 宇美町立宇美東中学校 | 322 |
| 福岡市立大楠小学校 | 68 | 粕屋町立仲原小学校 | 140 |
| 宇美町立宇美東中学校 | 322 | 志免町立志免西小学校 | 180 |
| 福岡市立春日南中学校 | 217 | 中間市立中間東小学校 | 67 |
| | | 合計 | 14校 1,932 |



小学校での防災教育



中学校での防災教育

(3) 青少年赤十字メンバーの育成

他校のメンバーとの交流も行いながら、赤十字やリーダーシップ等について学ぶことができる研修会や国際交流事業を行いました。

ア. 本社主催

| 行事の名称 | 実施日 | 対象 | 内容 | 場所 | 参加者数 |
|--|------------|-----|--|---------------------------------|------------|
| 青少年赤十字国際交流集会 JRC/RCY International Meeting, "Tokyo 2023" | 11月23日～26日 | 高校生 | 気候変動と平和教育について、自分たちが属する国や地域でどのようにリーダーシップを発揮できるかを交流を通して学ぶプログラム | 国立 オリンピック 記念青少年 総合センター | 当県支部メンバー1名 |
| 青少年赤十字スタディー・センター | 3月22日～26日 | 高校生 | リーダーの養成を図るためのプログラム。 社会的包摂に関する体験学習 | 東照館 | 当県支部メンバー2名 |

イ. 支部主催

| 行事の名称 | 実施日 | 対象 | 内容 | 場所または 開催形態 | 参加者数 |
|--|---------|-------------------|--|--------------------------|---|
| 第1回高校連絡協議会 | 6月12日 | 高校生 | ・学校紹介、活動紹介 ・スタディー・プログラム参加報告 ・各学校での取組好事例の発表 ・今後の活動に関する全体討議 | 福岡赤十字病院 | メンバー 31名 指導者 5名 |
| 高校連絡協議会総会 | 8月26日 | 高校生 | ・規約、スローガンの確認 ・役員改選、新役員挨拶 ・今年度の活動に関する協議 ・防災に関する学習 | 当県支部 | メンバー 20名 指導者 4名 |
| リーダーシップ・トレーニング・センター | 8月3日～5日 | 小学生 中学生 高校生 | ・赤十字に関する学習 ・ワークショップ ・救急法等 | 国立夜須高原青 少年自然の家 | メンバー 50名 指導スタッフ17名 引率等教員 5名 賛助奉仕団 5名 青年奉仕団 7名 |
| 第2回高校連絡協議会・ 全国学生献血クリスマス キャンペーン2023 | 12月17日 | 高校生 | ・献血についての学習 ・献血推進活動の準備品作成 ・全国学生クリスマス献血キャンペーン2023 | 当県支部 福岡市西側ふれ あい広場等 | メンバー 35名 指導者 4名 |
| 高校連絡協議会年度末集会 | 3月2日 | 高校生 | ・本年度の活動報告 ・卒業生を送る会 ・青年赤十字奉仕団の活動紹介 | 当県支部 | メンバー 40名 指導者 3名 |



リーダーシップ・トレーニング・センター



高校連絡協議会

ウ. 国際交流事業

青少年赤十字の実践目標の1つである「国際理解・親善」の一環として、姉妹協定を締結している大韓赤十字社釜山広域市支社 RCY メンバーと毎年交互に訪問・受入を実施しています。

令和5年度は、4年ぶりに当県支部青少年赤十字メンバーがホストファミリーとして同支社のメンバーのホームステイの受入を実施しました。

| 期間 | 受入場所 | 受入人数 |
|---------------------|-------------------------|------|
| 令和5年7月21日(金)～24日(月) | 飯塚市立八木山小学校 飯塚市立鎮西小学校 | 7名 |



両国の活動紹介



相撲大会を通じた両国メンバーの交流



福岡県支部救護倉庫見学



福岡県支部訪問時の集合写真

(4) 青少年赤十字加盟校から寄せられた義援金・救援金

青少年赤十字の実践目標である「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の一環として、多くの加盟校で、相次ぐ自然災害のための義援金・救援金の募金活動に取り組み、たくさんの心温まる寄付をいただきました。令和5年度の青少年赤十字加盟校からの寄託金合計額は、1,987,153円となりました。

| No. | 義援金・救援金等名称 | 学校名 |
|-----|--------------------|---|
| 1 | 青少年赤十字教育等支援事業 | 宗像市立地島小学校 地島ゆりの樹幼稚園 |
| 2 | 令和5年5月能登地方地震災害義援金 | 福岡舞鶴高等学校 福岡舞鶴誠和中学校 |
| 3 | 令和5年7月7日からの大雨災害義援金 | 福智町立弁城小学校 |
| 4 | ウクライナ人道危機救援金 | 久留米市立川会小学校 福岡県立修猷館高等学校 筑紫野市立天拝小学校 |
| 5 | 2023年トルコ・シリア地震救援金 | 福岡工業大学附属城東高等学校 |
| 6 | 2023年モロッコ地震救援金 | 粕屋町立粕屋西小学校 福岡工業大学附属城東高等学校 |
| 7 | 2023年リビア洪水救援金 | 粕屋町立粕屋西小学校 |
| 8 | 赤十字活動資金 | 朝倉市立蜷城小学校 福岡県立柏陵高等学校 |
| 9 | 令和6年能登半島地震災害義援金 | 朝倉市立蜷城小学校 福岡県立早良高等学校 大和青藍高等学校 大野城市立大城小学校 粕屋町立粕屋西小学校 筑紫野市立天拝小学校 春日市立春日西小学校 春日市立天神山小学校 学校法人嶋田学園 飯塚高等学校 朝倉市立三奈木小学校 福岡舞鶴高等学校 福岡市立高宮中学校 粕屋町立粕屋中央小学校 志免町立志免西小学校 嘉麻市立熊ヶ畑小学校 |
| | 合 計 | 1,987,153円 |

(5) 青少年赤十字指導者の養成講習会等の開催

各加盟校（園）においては、教師が指導者となって、児童・生徒とともに活動に取り組みます。そのため、活動への理解がより深まるように指導者を対象とした各種の講習会を開催しています。令和5年度は、佐賀県にて開催された九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会に参加したほか、県青少年赤十字研究会を集合形式で開催しました。

県・本社主催

| 実施日 | 講習会等の名称 | 参加者数 |
|-----------|----------------------|------|
| 6月24日 | 第1回福岡県赤十字指導者養成講習会 | 29 |
| 8月18日～19日 | 第2回福岡県赤十字指導者養成講習会 | 20 |
| 8月20日 | 九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会 | 2 |
| 2月20日 | 福岡県青少年赤十字研究会 | 26 |

2. 青少年赤十字の普及

(1) 積極的な加盟促進

加盟促進については、新規加盟勧奨活動を継続的に行った結果、令和5年度は保育園3園、小学校8校・中学校3校、合わせて14校・園が新たに加盟し、県内の加盟校は411校となりました。

令和6年3月31日現在

| 教育行政区分 ※但、私学を含む | 市・区・郡 | 保育・幼稚園 | | 認定こども園 | | 特別支援学校 | | 小学校 | | 中学校 (義務教育学校 含) | | 義務教育学校 | | 高等学校 | | 通信制 | | 各種学校 | | 合計 | |
|--------------------|---|-----------|--------------|------------|--------------|------------|--------------|------------|--------------|-------------------|--------------|------------|--------------|------------|--------------|------------|--------------|------------|--------------|------------|--------------|
| | | 園数 (園) | メンバー数 (人) | 学校数 (校) | メンバー数 (人) | 学校数 (校) | メンバー数 (人) | 学校数 (校) | メンバー数 (人) | 学校数 (校) | メンバー数 (人) | 学校数 (校) | メンバー数 (人) | 学校数 (校) | メンバー数 (人) | 学校数 (校) | メンバー数 (人) | 学校数 (校) | メンバー数 (人) | 学校数 (校) | メンバー数 (人) |
| 福岡市 教育委員会 | 東区・博多区・中央区・ 南区・城南区・早良区・ 西区 | 5 | 403 | 1 | 225 | 5 | 513 | 73 | 44,057 | 7 | 2,670 | 0 | 0 | 19 | 18,962 | 1 | 10 | 1 | 377 | 112 | 67,217 |
| 北九州市 教育委員会 | 門司区・小倉北区・ 小倉南区・若松区・ 八幡東区・八幡西区・ 戸畑区 | 10 | 525 | 0 | 0 | 0 | 0 | 35 | 11,526 | 11 | 4,263 | 0 | 0 | 4 | 2,182 | 0 | 0 | 0 | 0 | 60 | 18,496 |
| 福岡 教育事務所 | 春日市・大野城市・ 筑紫野市・太宰府市・ 那珂川市・糸島市・ 古賀市・宗像市・福津 市・糟屋郡 | 2 | 250 | 2 | 97 | 0 | 0 | 57 | 32,746 | 15 | 7,715 | 0 | 0 | 6 | 6,395 | 0 | 0 | 0 | 0 | 82 | 47,203 |
| 北九州 教育事務所 | 直方市・中間市・宮若 市・遠賀郡・鞍手郡 | 7 | 729 | 0 | 0 | 0 | 0 | 22 | 5,930 | 6 | 2,155 | 0 | 0 | 3 | 922 | 0 | 0 | 0 | 0 | 38 | 9,736 |
| 北筑後 教育事務所 | 朝倉市・久留米市・ 小郡市・うきは市・ 朝倉郡・三井郡 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 24 | 6,751 | 2 | 983 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 26 | 7,734 |
| 南筑後 教育事務所 | 大川市・八女市・ 筑後市・柳川市・ みやま市・大牟田市・ 三潁郡・八女郡 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 39 | 7,914 | 3 | 862 | 2 | 185 | 1 | 462 | 0 | 0 | 0 | 0 | 45 | 9,423 |
| 筑豊 教育事務所 | 飯塚市・嘉麻市・田川 市・嘉穂郡・田川郡 | 3 | 396 | 0 | 0 | 0 | 0 | 26 | 6,490 | 8 | 2,477 | 0 | 0 | 3 | 1,820 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 | 11,183 |
| 京築 教育事務所 | 行橋市・豊前市・京都 郡・築上郡 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 1,422 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 1,422 |
| 合計 | 29市・11郡 (31町村) | 27 | 2,303 | 3 | 322 | 5 | 513 | 276 | 115,414 | 60 | 22,547 | 2 | 185 | 36 | 30,743 | 1 | 10 | 1 | 377 | 411 | 172,414 |

※閉校による登録抹消 2校(園)

※加盟の形態は、全校加盟・学年加盟・学級加盟・クラブ加盟があります。

令和5年度新規加盟登録校

大井保育園
恵大保育園
めぐみ保育園
飯塚市立伊岐須小学校
鞍手町立古月小学校

大野城市立大野南小学校
北九州市立小森江小学校
太宰府市立太宰府小学校
福岡市立住吉小学校
福岡市立西都小学校

糸田町立糸田中学校
福岡市立鶴田小学校
芦屋町立芦屋中学校
福岡市立住吉中学校

(以上 14校・園)

4 国際活動

赤十字の国際活動は、赤十字国際委員会及び国際赤十字・赤新月社連盟の連携のもと、191の国と地域に広がる赤十字のネットワークにより「緊急救援」「復興支援」「開発協力」等を行っています。

令和5年度において、日本赤十字社では各国赤十字社と国際赤十字・赤新月社連盟が実施するイスラエル・ガザでの救援・復興活動を支援するために「イスラエル・ガザ人道危機救援金」の募集を開始しました。令和3年度から開始した「ウクライナ人道危機救援金」の募集なども継続しています。

また、国際赤十字・赤新月社連盟からの依頼により、パレスチナ赤新月社医療支援事業及びバングラデシュ南部避難民保健医療支援事業の活動のため、福岡赤十字病院から医師1名、看護師1名を派遣しました。

1. 国際活動の参加

(1) 国際救援金受付

日本赤十字社では、国外において突発的に発生した大規模な自然災害や武力紛争等の人道危機などに支援する救援金を募集しました。

特に、令和5年10月7日以降、イスラエルとガザとの武力衝突が激化していることから、日本赤十字社では「イスラエル・ガザ人道危機救援金」の募集を開始しました。



負傷者の搬送にあたるパレスチナ赤新月社©PRCS



救急車で負傷者を搬送する赤十字関係者©PRCS

| 救援金名 | 金 額 (円) |
|--------------------|------------|
| 2023 年トルコ・シリア地震救援金 | 14,024,023 |
| ウクライナ人道危機救援金 | 6,516,910 |
| 2023 年モロッコ地震救援金 | 258,191 |
| 2023 年リビア洪水救援金 | 138,483 |
| 2023 年アフガニスタン地震救援金 | 68,184 |

| | |
|---------------------|------------|
| 2023 年アメリカ・ハワイ火災救援金 | 79,285 |
| アフガニスタン人道危機救援金 | 103,712 |
| イスラエル・ガザ人道危機救援金 | 377,957 |
| 中東人道危機救援金 | 60,669 |
| バングラデシュ南部避難民救援金 | 249,103 |
| 無指定海外救援金 | 100,985 |
| 青少年赤十字教育支援事業救援金 | 15,000 |
| 「NHK海外たすけあい」寄付金 | 16,350,353 |

（２）国際救援・開発協力要員派遣事業

本社と連携のもと、国際赤十字が行う救援・開発プロジェクトに対して、国際救援・開発協力要員を派遣しました。

ア. パレスチナ赤新月社医療支援事業

平成 30 年 4 月より、パレスチナ赤新月社と協力し、レバノンにおいて同社が運営する医療施設への支援活動を展開しており、日本赤十字社は、現地のスタッフ医師として、医療の質向上や病院活動の支援等を目的に、エコー及び画像読影の研修等を通して医療技術指導を行いました。

派遣先：レバノン共和国・ベイルート等

派遣者：福岡赤十字病院 医師 松田 圭央

派遣期間：令和 5 年 7 月 3 日（月）～令和 5 年 10 月 30 日（月）



イ. バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業

バングラデシュ赤新月社、国際赤十字・赤新月社連盟、その他支援赤十字社と連携し、地域に根差した健康改善支援活動の質の向上や維持等を目的に、現地にて同活動における達成点や課題の抽出、整理を行い、今後の事業全体の方向性を協議する活動に参加しました。

派遣先：バングラデシュ人民共和国

派遣者：福岡赤十字病院 看護師長 橋本 香織

派遣期間：令和6年2月3日（土）～令和6年2月20日（火）



5 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成されたボランティア組織です。地域に根差した活動を行う「地域奉仕団」、専門知識や技術を活かした「特殊奉仕団」、そして若い力と行動力で社会に貢献する「青年奉仕団」の3つがあります。

1. 奉仕団の活動状況

(1) 地域赤十字奉仕団

ア. 地域赤十字奉仕団員数（令和5年度）

| 市町村数 | 奉仕団数 (団) | 団 員 数 (人) | | |
|------|-------------|-----------|-------|-------|
| | | 男 | 女 | 計 |
| 60 | 30 | 847 | 5,327 | 6,174 |

イ. 活動状況

(ア) 防災に関する活動：11 団

地域で開催される防災訓練に参加し、炊き出しを行い、災害時に備えた活動をしました。

(イ) 地域福祉に関する活動：12 団

清掃活動のほか、独居老人宅を訪問などの住民福祉向上のための、心のこもった活動を実施しました。

(ウ) 青少年赤十字の普及、育成に関する活動：10 団

青少年赤十字は、保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教育の場で展開されており、奉仕団においても、青少年の健全育成を目的とした学校行事（青少年赤十字加盟登録式・入学式・卒業式等）への参加、普及活動、登校時の挨拶運動や防犯活動を推進しています。

(エ) 救急法、健康生活支援講習等講習普及に関する活動：11 団

事故を防止し、緊急時に必要な手当ができるように、正しい知識と技術を習得する救急法講習会や健康管理、地域での高齢者支援等を学ぶ健康生活支援講習を開催し、団員自身が研修会等で受講するとともに、地域住民への普及に努めました。

(オ) 献血推進に関する活動：8 団

地域や街頭で実施する献血活動に際し、献血への協力呼びかけ等を行いました。

(カ) 義援金及び救援金への募金：2 団

「令和6年能登半島地震義援金」及び「ウクライナ人道危機救援金」及びへの募金活動を行いました。

(キ) 赤十字会員増強に関する活動：8 団

地域に根差した活動の一環として、活動資金の募集にもご協力いただきました。

| 区 分 | 奉仕団による実績 (A) | 地区分区が募集する 活動資金実績 (B) | 奉仕団の 募集実績比率 (A/B) |
|---------|--------------|-------------------------|-------------------------|
| 令和 4 年度 | 15,276,024 円 | 335,163,952 円 | 4.6% |
| 令和 5 年度 | 14,670,691 円 | 350,972,289 円 | 4.2% |

(2) 青年奉仕団

ア. 福岡県青年赤十字奉仕団

平成 31 年 3 月、福岡県青少年赤十字高校連絡協議会卒業生メンバーを中心に再結成された奉仕団です。令和 5 年度は、博多駅前での能登半島地震義援金の街頭募金を行いました。

イ. 日本赤十字九州国際看護大学学生奉仕団

日本赤十字九州国際看護大学学生奉仕団は、同大学のボランティアサークルで構成されています。

令和 5 年度は、福岡県が健康増進を目的に普及を行っている「ふくおか健康ポイントアプリ」を高年齢の方が利用するためにスマートフォンで行う登録操作を支援する活動を赤間地区で行いました。

また、東アジア地域の各赤十字社のユースが主導する EAYN（東アジアユースネットワーク）にワーキングメンバーとして参加し、ワークショップのサポートや SNS を通して東アジア諸国のメンバーと交流を行いました。

さらに、1 月に発生した能登半島地震に対して、博多駅前と小倉駅前にて街頭募金を行いました。

(3) 特殊奉仕団

ア. 日本赤十字社福岡県支部防災ボランティア会

防災ボランティア会は、個人単位で活動に参加していたボランティアを組織化し、設立された防災ボランティア団体です。令和 5 年度は、地域住民に向けた防災セミナーの実施や県防災訓練でのボランティアセンター運営訓練に協力するなど防災意識の向上や知識の普及を行いました。

イ. 福岡赤十字病院奉仕団

新型コロナウイルス感染症の影響により一時活動が休止となっていましたが、令和 5 年度から活動を再開し、外来患者の受付案内等患者に寄り添った活動を行いました。

ウ. 赤十字看護（介護）奉仕団 10 団

赤十字家庭看護法（現・健康生活支援講習）の講習修了者をもって組織された赤十字看護（介護）奉仕団です。各地域の福祉施設において、移動介助やシーツ交換等を行いました。

エ. 福岡県いやしのケア赤十字奉仕団「なごみ」

県内の社会福祉施設及び病院等を活動の場として、入所者や患者に対し、心身のストレスの緩和、精神的なケアを目的とした奉仕活動を実施しています。

（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設での活動に制限があり休止中）

オ. 安全奉仕団

赤十字救急法や水上安全法指導員の資格を有するボランティアで組織され、人々の安全と健康を守るための救急法や水上安全法などの講習を行い、普及活動に努めています。

カ. 福岡県青少年赤十字賛助奉仕団

青少年赤十字活動の普及発展及び加盟促進を目的として、青少年赤十字指導者協議会の 0B で結成された奉仕団です。リーダーシップ・トレーニング・センターの運営支援や加盟校への情報誌発送作業を行いました。

キ. 福岡県柔道整復師会赤十字奉仕団

打撲、捻挫、挫傷（筋、腱の損傷）、骨折、脱臼などの施術を行う柔道整復師の免許を有する方々によって、災害救護や保健衛生等に関する奉仕活動を目的に結成された奉仕団です。令和 2 年度から団員が運営する施術所に募金箱等を設置し、集められた募金を活動資金として寄付し、当県支部の支援活動を行っています。

ク. 特別養護老人ホーム大寿園赤十字奉仕団「むくの木」

大寿園で活動を行っていた個々のボランティア同士が結束することによって更なる活動の充実を目指すことを目的として結成されました。業務補助として利用者の外出補助等を行いました。

ケ. 福岡県赤十字無線奉仕団

無線奉仕団は、アマチュア無線の愛好家で組織された奉仕団で、アマチュア無線の技術と経験を活かして活動を行っています。当県支部と全国の支部が災害時に円滑に無線通信ができるよう通信訓練を行いました。また、本県防災ボランティア会の団員を対象とした無線機器の取り扱い訓練を行いました。

コ. 福岡赤十字病院音楽奉仕団

福岡赤十字病院の患者さんやそのご家族の方々等に、病院で少しでも気持ちよく過ごしていただくため、音楽の楽しさをお届けするコンサートの企画・運営を行うために結成された奉仕団です。福岡第一高校クラシック演奏部と一緒にトワイライトコンサートを実施しました。

（４）ボランティア活動充実のための取組

ア. ボランティア DAY2023 における活動：20 団

例年、5 月 8 日の世界赤十字デーを中心に清掃活動等地域のニーズにあった活動を実施しています。新型コロナウイルス感染の感染防止を徹底したうえで、地域のニーズにあわせた活動を実施しました。

イ. 本社・ブロック主催研修

地域に根ざした存在である赤十字ボランティアが主体的に赤十字事業に参画し、世代や分野を超えて連携し、活動を実施していくための研修会に参加しました。

| 実施日 | 行事名 | 場 所 | 当県支部参加者数 |
|-----------|------------------------------------|--------|----------|
| 8 月 5 日 | 赤十字奉仕団等ボランティアにかかるプロジェクト型活動研修会 | WEB 形式 | 3 名 |
| 10 月 23 日 | 赤十字奉仕団等ボランティアにかかるプロジェクト型活動研修会（第2回） | WEB 形式 | 2 名 |

2. 大韓赤十字社釜山広域市支社奉仕会員との交歓研修会

昭和 50 年 8 月大韓赤十字社釜山広域市支社と本県支部は姉妹協定を締結し、親善友好を深めています。令和 5 年度は、数年ぶりに交流を再開し、10 月に福岡県の奉仕団員等 7 名が訪韓、交歓研修会を行いました。



大韓赤十字社釜山広域市支社での集合写真



事業紹介の様子



大韓赤十字奉仕団と交流



大韓赤十字社献血ルームの視察

特殊赤十字奉仕団/青年赤十字奉仕団結成状況

| 区 分 | 奉 仕 団 名 | 結成年月日 | 委員長名 | 団員数（人） |
|-----------------|----------------------------------|-------------|---------|--------|
| 防 災 ボ ラ ン テ ィ ア | 日本赤十字社福岡県支部 防災ボランティア会 | H25. 7. 27 | 平 山 光 典 | 23 |
| 病 院 奉 仕 団 | 福岡赤十字病院奉仕団 | S59. 10. 9 | 宮 地 英 子 | 28 |
| 看 護（介 護）奉 仕 団 | 篠栗町赤十字老人看護奉仕団 「ふれあい会」 | S62. 2. 27 | 廣 瀬 厚 子 | 45 |
| | 浮羽町赤十字老人看護奉仕団 「あいの会」 | H 3. 9. 12 | 渕 上 正 子 | 52 |
| | 直方市赤十字老人看護奉仕団 「胞子の会」 | H 4. 8. 18 | 古 賀 章 子 | 24 |
| | 北九州赤十字看護奉仕団 「じゅんの会」 | H 9. 7. 9 | 国 島 ふさ子 | 12 |
| | 福岡赤十字訪問看護ステーション 介護奉仕団「ひまわりの会」 | H 9. 7. 16 | 吹 野 正 義 | 3 |
| | 志免町赤十字介護奉仕団 「ふきのとう」 | H10. 4. 15 | 財 部 美佐子 | 17 |
| | 川崎町赤十字介護奉仕団 「ぎんなんの会」 | H12. 10. 16 | 松 岡 久 代 | 25 |
| | 今津赤十字病院介護奉仕団 「しおさい」 | H14. 3. 23 | 山 本 育 子 | 7 |
| | 久留米赤十字介護奉仕団 「みやびな会」 | H15. 4. 16 | 松 嶋 恵美子 | 3 |
| | 嘉麻赤十字介護奉仕団 「サルビアの会」 | H15. 4. 19 | 松 岡 良 子 | 5 |
| いやしのケア奉仕団 | 福岡県いやしのケア 赤十字奉仕団「なごみ」 | H10. 6. 15 | 庄 野 まり子 | 54 |
| 安 全 奉 仕 団 | 救急法普及委員会 | S45. 4. 1 | 佐 藤 茂 夫 | 54 |
| | 水上安全法普及委員会 | S45. 4. 1 | 中 村 成 也 | 57 |
| 賛 助 奉 仕 団 | 福岡県青少年赤十字賛助奉仕団 | H19. 6. 1 | 三 亀 幹 治 | 39 |
| 柔道整復師会奉仕団 | 福岡県柔道整復師会赤十字奉仕団 | H21. 4. 1 | 松 岡 保 | 625 |
| 赤 十 字 奉 仕 団 | 大寿園赤十字奉仕団「むくの木」 | H26. 3. 10 | 庄 野 まり子 | 12 |
| 無 線 奉 仕 団 | 福岡県無線赤十字奉仕団 | H26. 4. 11 | 橋 爪 兼 続 | 20 |
| 芸 能 奉 仕 団 | 福岡赤十字病院音楽奉仕団 | H31. 3. 29 | 寺 坂 禮 治 | 12 |
| 青 年 奉 仕 団 | 日本赤十字九州国際看護大学 学生奉仕団 | H14. 5. 27 | 赤 木 麻 央 | 30 |
| | 福岡県青年赤十字奉仕団 | H31. 3. 29 | 田 代 孟 | 20 |
| 計 | | 22 団体 | | 1, 167 |

6 活動資金の募集

当県支部が実施している様々な赤十字活動は、毎年、県民の皆様から寄せられる活動資金（寄付金等）によって行っています。

活動資金の募集の担い手は、地区・分区を通じた地域の募集奉仕者の方々による直接戸別訪問や町内会、自治会などを通じて地域にお住まいの多くの方々の善意のご協力によるものです。

令和5年度は、遺贈・相続財産等の高額寄付のほか、会員の皆様から多くのご協力をいただくことができました。

また、会員の増強と赤十字思想の普及を図り、今後一層社業の進展を期すための「全国赤十字大会」が、日本赤十字社名誉総裁皇后陛下及び名誉副総裁各妃殿下の御臨席を仰ぎ、開催されました。その他、九州八県赤十字大会（佐賀県）、福岡県日赤紺綬会第63回総会を開催しました。

1. 個人会員と活動資金の募集

例年、地区・分區管内の赤十字奉仕者（協賛委員など）、自治会・町内会においてお世話をいただいている皆さまのご協力を得て、県民の皆様には会員制度の周知を図るとともに、赤十字活動に関する理解促進をお願いしておりますが、令和5年度は地区・分区を通じたご協力が厳しい状況であった一方、遺贈・相続財産等の高額寄付者による活動資金の協力が増加しました。

また、福岡県日赤紺綬会第63回総会を開催し、紺綬会会員のご協力を得て、多くの高額協力者による新規会員の勧誘とご加入、既会員の再協力等によるご協力をいただきました。今年度は地区・分区を通じた協力が減少傾向にある中、高額寄付の協力をいただいたことにより、赤十字活動資金の募集実績は目標額を上回るご協力をいただきました。

2. 法人会員と活動資金の募集

毎年、法人会員にダイレクトメールによる活動資金のご協力を依頼しています。これに併せて支部内に特別勧奨班を組織し、主に未協力の法人会員を訪問し、活動資金の協力を直接依頼する「法人勧奨」に取り組んでいます。

新規法人会員の開拓については、福岡商工会議所と連携を図り、所属会員の皆様へ活動資金募集用パンフレットをご案内するなど、より多くの法人が赤十字の取り組んでいる人道支援活動に共感いただけるよう周知を行いました。また、これまでに赤十字へのご協力が多い業種である建築・不動産・医療関係の法人に重点的に協力依頼をかけるなど、ダイレクトメールの送付先の拡大を図っています。

また、福岡県日赤紺綬会と地区・分区の連携を図り、多くの法人に活動資金のご協力をいただきました。

その他、企業・団体の社会貢献事業（CSR活動）の一環として組み込んでいただけるよう、チャリティボックス（募金箱）や支援型自動販売機の設置、赤十字支援マークを活用した赤十字への支援活動（寄付付商品）など、様々なメニューをご提案しております。ダイレクトメールでのお知らせや法人勧奨で訪問した際にご説明するなど、赤十字支援の裾野を広げる周知・広報活動に取り組みました。

3. 活動資金募集実績

(1) 活動資金募集実績（一般・法人）

| 目標額(円) | | | 実績額(円) | 件数 | 達成率(%) | 計 | 達成率(%) |
|-------------|----|-------------|-------------|-------|--------|-------------|--------|
| 500,000,000 | 一般 | 425,000,000 | 545,654,853 | 5,946 | 128.4 | 616,751,278 | 123.4 |
| | 法人 | 75,000,000 | 71,096,425 | 1,245 | 94.8 | | |

(2) 活動資金募集実績（地区・支部）

| 目標額(円) | | | 実績額(円) | 達成率(%) | 計 | 達成率(%) |
|-------------|----|-------------|-------------|--------|-------------|--------|
| 500,000,000 | 地区 | 440,000,000 | 370,995,946 | 85.1 | 616,751,278 | 123.4 |
| | 支部 | 60,000,000 | 245,755,332 | 219.8 | | |

(3) 高額活動資金実績（1件50万円以上）

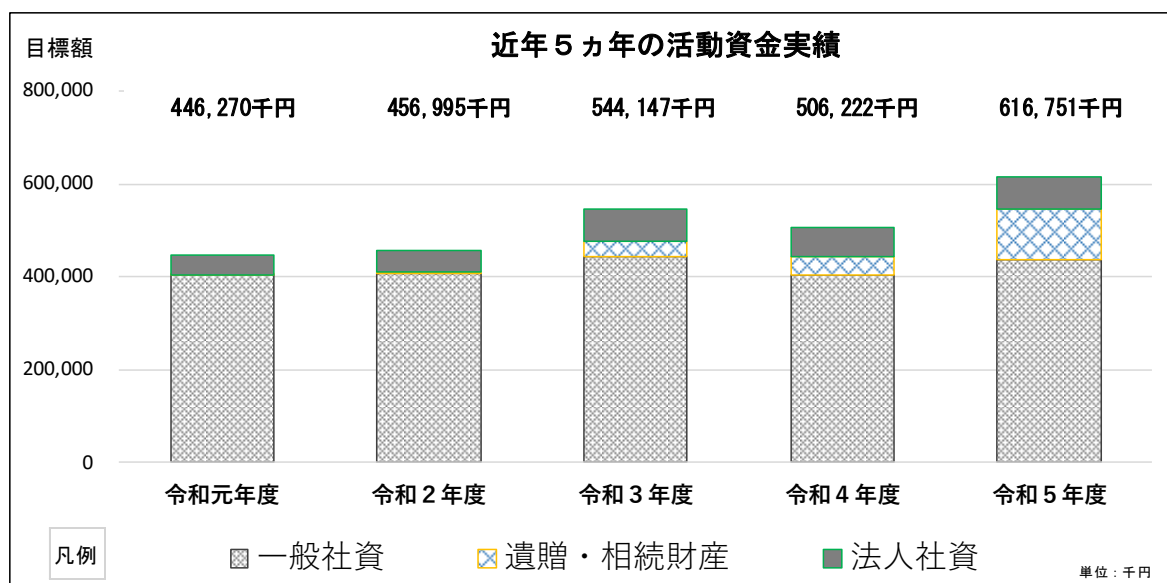
| 実績額(円) | 内訳(円) | | 件数 | 合計件数 |
|-------------|-------|-------------|----|------|
| 251,650,186 | 一般 | 206,054,800 | 73 | 108 |
| | 法人 | 45,595,386 | 35 | |

※一般社資実績額に遺贈1件（99,999,230円）、相続財産寄付6件（8,099,070円）を含む。

(4) 遺贈・相続財産寄付実績

| 遺贈 | | 相続財産寄付 | | 計 | 件数 |
|----|------------|--------|-----------|-------------|----|
| 件数 | 実績額(円) | 件数 | 実績額(円) | 108,098,300 | 7 |
| 1 | 99,999,230 | 6 | 8,099,070 | | |

(5) 赤十字活動資金実績の推移（5年間）



（６）赤十字会員数（一般・法人）

令和6年3月31日現在

| 会員数（計） | 一般会員 | 法人会員 |
|--------|-------|------|
| 4,596 | 4,043 | 553 |

4. 募金箱、寄付金付き商品及び寄付金付自動販売機による活動資金募集実績

令和5年度における企業・団体等の社会貢献事業（CSR活動）の取り組みとして、当県支部は寄付金付自動販売機設置の推進を図るとともに、寄付金付き商品による赤十字活動資金への協力を促進しました。今後とも企業団体等が検討するCSR活動の一環として、赤十字活動への理解と協力が得られるよう、連携を強化していきます。

（１）チャリティ募金箱による活動資金募集実績

| 団体名 | 募金箱設置数 | 実績額(円) | 摘要 |
|------------------|--------|---------|-------------|
| 公益社団法人 福岡県柔道整復師会 | 58 箇所 | 175,094 | |
| 福岡県内農業協同組合 | 9 箇所 | 125,375 | 9 単協内に募金箱設置 |
| 有限会社 直方メディカルサービス | 14 箇所 | 82,056 | |
| そ の 他 | | 419,296 | |
| 計 | | 801,821 | |

（２）寄付付き商品による活動資金募集実績

| 団体名 | 期間 | 実績額(円) | 摘要 |
|-------------------|-------------|-----------|-------------------|
| 福岡ソフトバンクホークス株式会社 | 4月8日～12月31日 | 1,075,386 | ファイト！九州タカポイント募金 |
| 株式会社西鉄ホテルズ | 4月1日～3月31日 | 476,598 | 寄付付き宿泊プランの利用者分を寄付 |
| 合同会社リアークス | 4月1日～3月31日 | 15,765 | 歯みがきシートの売上の一部 |
| 日本ハムマーケティング株式会社 | 11月1日～1月31日 | 12,884 | お歳暮ギフトの売上の一部 |
| ブックオフコーポレーション株式会社 | 4月1日～3月31日 | 8,818 | 本などの買取金額 |
| 計 | | 1,589,451 | |

（３）寄付付き自動販売機による活動資金募集実績

寄付金付き自動販売機設置台数 29 台、寄付額 1,414,778 円(令和6年3月31日現在)

7 広 報

赤十字の使命や活動を一人でも多くの方々に理解していただくため、様々な広報活動を展開しました。

令和5年度は、1月に発生した能登半島地震における当県支部の活動などを県民の皆様へお伝えするため、マスメディアを通じて積極的に発信しました。

また、日本赤十字社や当県支部の活動について幅広い層へ知ってもらうためのイベントを新たに実施し、200人を超える多くの方にご来場いただきました。

1. 令和6年能登半島地震災害対応にかかる広報活動

日本赤十字社では、1月の能登半島地震発生直後から全国の支部が災害対応にあたり、その様子がマスメディアを通じて発信されました。

当県支部も、マスメディアへ情報提供することで、積極的に取材を受け入れ、被災地の現状や実施した救護活動、義援金等の情報などを県民の皆様へ発信しました。

主な取材対応

- ア 救護班出発・到着にかかる取材（新聞社2社、テレビ局5局）
- イ 救護班として派遣された医師への取材（テレビ局2局）
- ウ 義援金贈呈式への取材（テレビ局2局）
- エ 災害対応パネル展示（テレビ局1局）



第6班到着式での取材



救護班 医師への救護活動に関する取材



義援金贈呈式への取材



福岡県庁におけるパネル展示

2. 赤十字運動月間の取り組み

(1) レッドライトアッププロジェクトの実施

令和5年度で8回目を迎える日本赤十字社の全社的プロジェクトで、「人道」の歴史に思いをはせるとともに、理解を深めていただくことを目的とし、各都道府県のシンボルとなる歴史的建造物やランドマークを赤くライトアップします。

令和5年度は、「福岡市赤煉瓦文化館」「旧福岡県公会堂貴賓館」「三池炭鉱宮原坑」の県内3か所で実施しました。

(2) 福岡市天神地区の大型ビジョン及びバスビジョンにてCMを放映

今年度より天神地区における大型ビジョン4基と西鉄バス58台で、本社制作の赤十字紹介用TVCMを放映し、不特定多数の方々を対象とした広報展開を行いました。



レッドライトアッププロジェクトの実施
(旧福岡県公会堂貴賓館)



天神地区大型ビジョンでのCM放映

3. マスメディアとの連携

近年の活動資金の減少に歯止めをかけるため、地元放送局とタイアップし、災害時の救護活動や救急法等の講習などの赤十字活動を取り上げてもらうことで、防災・減災意識の向上を図るとともに、日本赤十字社の認知度向上に努めました。

主な内容

- ア 赤十字×KBC 防災出前授業の実施（テレビ収録）
- イ 赤十字事業についての紹介（テレビ中継、ラジオ収録、インターネット）
- ウ 救急法等の講習内容に関連のある時事ニュースにおける取材（テレビ収録）
- エ 年間を通じた福岡県支部の活動についての配信（インターネットニュース）
- オ イベント開催の告知（テレビ生出演 30秒PR）



赤十字×KBC 防災出前授業



災害救護活動についての紹介（テレビ収録）



赤十字事業についての紹介（テレビ中継）



赤十字事業についての紹介（ラジオ収録）

4. 広報資材を活用したイベントの開催

各市区町村や外部団体主催の市民参加型イベント内で、赤十字事業紹介パネルや救援物資などを展示することで、赤十字活動を理解していただけるようPRを行いました。

また、新たに当県支部主催の広報啓発イベントを実施し、幅広い層に振り向いていただけるよう福岡県内で知名度のあるキャラクターを活用したステージイベント等を行いました。



支部主催広報啓発イベントの実施
（救急フェスティバル）



市民参加型イベントの参加
（大野城市ふくしフェスティバル）

5. 広報資材の配布等

(1) 活動資金募集チラシなど

地区区分を通じて、広報資材を各家庭やボランティアの方々に次のとおり配布しました。

配布資材

| | |
|-----------------|-----------|
| ・活動資金募集チラシ | 659,310 部 |
| ・リーフレット | 4,855 部 |
| ・赤十字会員募集のしおり | 23,011 部 |
| ・ポスター（B2、B3、A3） | 7,434 部 |

(2) 赤十字新聞

本社が毎月1日に発行する赤十字新聞を、県内の全地区区分および赤十字関係者へ毎月約3,000部配布しました。

(3) X(旧 Twitter)を活用した情報発信

当県支部の活動やイベント情報等をより多くの方々にリアルタイムでお届けできるよう、X(旧 Twitter)を活用した発信を行いました。

6. 地球温暖化（気候変動）への対応

日本赤十字社は、近年の気候変動への対応をしていくこととしています。当県支部においても、CO2削減に少しでも寄与するため、業務用自動車の更新にあたり、EV自動車（軽）を導入しました。



当県支部が導入したEV自動車

8 看護師等の養成

日本赤十字社が行う救護員としての看護師養成は、130 年以上の長い歴史と伝統を持つ重要な事業の一つであり、災害時に活躍できる看護師等を養成しています。全国には、12 の専門学校の他、学校法人 日本赤十字学園が開設する 6 つの看護大学があり、そのうちの一つが日本赤十字九州国際看護大学（宗像市）です。

大学では、学部、大学院研究科（修士課程・博士課程）併せて約 460 名が在籍し、これまで約 2,200 名を看護職者として輩出しています。新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、今年度は、年間を通じてほとんどの科目を開講しており、シミュレーション教育、VR、模擬カルテ等を用いた体験型学習を導入し、学生の主体的な学びをサポートしています。

日本赤十字九州国際看護大学における赤十字看護師の養成

ア. 卒業生・修了生の進路状況

赤十字の基本理念である「人道」を基調としながら、災害救護活動、国際救援活動など社会に貢献するとともに、国や文化の枠を超えて人々の健康や福祉向上のための高度な看護技術と国際性を兼備えた人材を養成しています。

令和 5 年度、学部においては 93 人の卒業生を、大学院においては修了生 9 人を、社会に送り出しました。



看護学部 卒業生 進路状況

| 卒業生数 | | 93 |
|------|-----------|------------|
| 内 訳 | 赤十字施設就職者数 | 39 (41.9%) |
| | 赤十字以外就職者数 | 47 (50.5%) |
| | 進 学 者 数 | 5 (5.4%) |
| | そ の 他 | 2 (2.2%) |

() 卒業生全体に占める対象者の割合

大学院 修了生 進路状況

| 修了生数 | | 9 |
|------|-----------|----------|
| 内 訳 | 医療機関就職者数 | 9 (100%) |
| | (うち赤十字施設) | 0 (0%) |
| | 教育機関就職者数 | 0 (0%) |
| | そ の 他 | 0 (0%) |

() 修了生全体に占める対象者の割合

イ. 赤十字特別推薦入試の実施

優秀な救護看護師を養成・確保するため、日本赤十字九州国際看護大学の入学試験にあたり、毎年1名を選考し、奨学金として年間60万円を貸与しています。

なお、本奨学金には返還免除となる要件があります。

| 学 年 | 1 年 生 | 2 年 生 | 3 年 生 | 4 年 生 | 計 |
|---------|-------|-------|-------|-------|---|
| 支部長推薦者数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |

ウ. 看護大学生に対する奨学金の貸与

令和4年度に見直した本奨学金制度は、看護学部在籍しより進路が明確となる3年生の中から2名を限度に修学に必要な資金の一部を奨学金として年間60万円（1名あたり）を貸与しています。

なお、令和4年度からの新制度では卒業後直ちに看護師、保健師の資格を取得し、県内の赤十字医療施設等に一定期間以上就業した場合、返還免除となります。

| 学 年 | 1 年 生 | 2 年 生 | 3 年 生 | 4 年 生 | 計 |
|------------|-------|-------|-------|-------|---|
| 旧制度奨学金貸与者数 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 新制度奨学金貸与者数 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |

エ. 効果的な実習に向けた取り組み

令和3年4月に策定したデジタルトランスフォーメーション推進計画に沿って、令和5年度は、ネットワーク環境の安定と強化のために学内高速無線LANの再整備工事を行いました。教材については、令和3年度に購入した高機能シミュレーターとwebカルテや映像機器とを連動させた演習や学内実習、「eナーストレーナー」の活用、MRゴーグルを使用した人体の理解等、DX計画に沿った教育研究環境整備を促進しています。

また、令和4年度学部入学生より導入した電子テキスト、LMSのMoodleの利用により、授業資料や課題のペーパーレス化を推進しています。図書や教育ソフト等の購入においても学外からアクセス可能な電子媒体資料を優先的に購入し、自宅や実習先を含めた学内外での教育・研究環境を整備しています。



MR ゴーグルを使用した授業の様子

オ. 社会連携・社会貢献活動

社会連携・社会貢献活動として、年間活動計画のもと、地域社会との連携強化に向けて活動を実施しています。具体的には、地域住民への学習の場の提供として「クロスカレッジ公開講座」を、令和3年度より継続して開催しています。

令和5年度は、令和4年度から継続している「地域住民とともに考える防災・減災」について、テーマは継続し、内容を変更して3回の講座を開講しました。また地域住民から健康に関する講座の希望があったため「かがやけシニア！シニア世代の健康づくりをサポート」というテーマで3回の講座を開催しました。これらの公開講座は、教員の教育研究活動を還元する場ともなっています。



公開講座で「笑いヨガ」を体験する様子

9 医療事業

赤十字病院は、「博愛・奉仕・平等」の理念のもと、地域に根差した中核病院として、質の高い医療を提供しています。全国で91の医療施設を運営し、グループのスケールメリットを生かした経営資源の有効活用など、県内の各赤十字医療施設においてもさらなる経営効率化に努め、地域住民のニーズや期待にお応えできるよう安定した経営基盤の確立を目指しています。

また、パレスチナやバングラディッシュへの国際救援活動として医師・看護師の派遣や、能登半島地震に対する被災者支援として医療救護班の派遣など国内外で幅広く活動しました。

1. 病院の事業概要

(1) 福岡赤十字病院

福岡市内及び近郊における基幹病院として、救急医療や高齢者医療及び予防医療を積極的に行うとともに、赤十字の使命である救援・救護活動においても、福岡県支部との連携を密にし、災害時に備えた体制の強化に努めました。

診療面では、福岡県指定の第二種感染症病床2床を含む、病床数511床を有し、24時間365日「断らない医療」を基本に患者受入れを行っております。新型コロナウイルス感染症対応では、5類に移行してからはコロナ患者を受け入れつつも、徐々に新型コロナウイルス感染症発生前の体制へと移行していきました。

当院は地域医療支援病院に指定されており、地域の基幹病院としてコロナ禍においても一般診療・救急医療体制を維持・継続してきました。また、設備面では令和5年12月に、「全身用X線CT装置」を更新したことで、より質の高い医療を提供します。

予防医療では、人間ドック健診センターを院内に設置し、人間ドック並びに生活習慣病予防健診を中心に、健康増進や疾病の早期発見など、受診者の方に安心して満足いただける健診を提供しています。

赤十字の事業の一つであり、私達の使命である災害救護については、福岡県地域災害医療センター及び福岡県DMAT指定医療機関に指定されており、自治体等が主催する各種救護訓練や、福岡県支部が主催する災害救護訓練への参加等、平時から災害に備えて訓練を重ね、職員の意識、救命技術の向上に努めています。

令和6年1月に発生した能登半島地震では、当院から計33名を派遣し、避難所でアセスメントや巡回診療を行い、赤十字としての使命を果たしました。

国際救援については、令和5年7月からパレスチナ赤新月社医療支援事業に医師1名、2月からバングラデシュ南部避難民保健医療支援事業に看護師1名を派遣し、国際赤十字・赤新月社連盟の一員として任務を全うしました。

地域の方との交流については、産直マルシェを月に2回開催しました。新鮮な農作物や加工品が多数出品され、多くの方が訪れ交流を深めました。



能登半島救護班派遣



能登半島救護班派遣



能登半島救護班派遣



パレスチナ赤新月社医療支援事業



バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業



産直マルシェ

(2) 今津赤十字病院

当院は、神経難病・脳卒中・認知症疾患を持つ高齢者への診療を柱とする福岡市西区・糸島医療圏の公的医療機関として、「地域医療の貢献」、「全人的医療」、「医療と福祉の架け橋」を基本方針とし、地域住民に安心・信頼される医療サービスを提供しています。

令和5年度においては、新型コロナウイルス感染症が5類に移行しましたが、引き続き新型コロナウイルス感染症ワクチンの出張接種や地域住民に対する個別接種を行い、地域の感染拡大防止に寄与しました。

認知症に対する入院診療にあつては、身体合併症を持つ患者の内科医師による診療をさらに徹底し、内科医師と精神科医師の連携強化により、内科合併症を持つ認知症患者の積極的な治療と加算等の取得による入院収益の増収に努めました。

地域住民が気軽に立ち寄れる憩いの場として機能していた「いまづカフェ」は、新型コロナウイルス感染症の感染対策のため一時中止していましたが、令和5年11月に再開し、当院の看護師や作業療法士などが参加して健康相談や創作活動を通じて、地域住民の健康と認知症予防の一助となる活動を行いました。

在宅医療の要でもある訪問看護ステーションは、24時間対応型として、地域の診療所と密な連携を行い、乳幼児から身体・精神に障害のある高齢者に至るまで幅広い疾患や年齢層の患者に対する在宅支援を引き続き行いました。

今年1月に発生した「令和6年能登半島地震」では、当院から「医療救護班」（令和6年1月10日～1月14日、令和6年1月20日～1月24日）として7名派遣し、被災地での巡回診療を行いました。また「こころのケア班」（令和6年2月7日～2月13日）としても4名を現地に派遣し、自身も被災者でありながら他の被災者の支援に従事し、心身ともに疲弊している行政職員の方を対象に「こころのケア」を行い、現地のニーズに応える幅広い活動で被災者に寄り添いました。



いまづカフェでの創作活動



ホットタオルの提供（こころのケア班）



地区の巡回診療に向かう救護班



小学校での巡回診療

(3) 嘉麻赤十字病院

当院は、嘉麻市の公的医療機関として、地域の医療需要に対応するために周辺の急性期病院・診療所・福祉施設等との連携強化を図り、二次救急告示指定病院及び在宅療養支援病院として、急性期から回復期医療、訪問診療から在宅介護に至るまで、幅広いサービスの提供に努めています。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、9月末までの移行期間中の感染拡大による医療のひっ迫に備え、フェーズに沿ってコロナ患者用病床を確保しました。また、同感染症に係る退院基準を満たした回復患者の積極的な受け入れに協力する後方支援医療機関に登録を行いました。

新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に関しては、職員、高齢者施設入所者及び地域住民への個別接種の役割を担い、これまでに約8,200回のワクチン接種を行いました。

医療環境の整備については、胃内視鏡検査における健診者の負担を軽減するため、7月に経鼻内視鏡スコープを整備しました。8月には外来エリアの一部改修工事に着手し、トイレ及び検査室の改修、病院沿革等を記した展示パネル設置等を行い、病院機能の強化及び患者サービスの向上に取り組みました。検査室の改修により超音波検査室を設けてエコーを2台体制とし、さらに生理検査室のベッドの運用を変更することで、健診者の待ち時間が大幅に短縮されました。

災害時の救護活動については、令和5年7月7日から大雨災害の際に、朝倉郡東峰村へ看護師・主事を派遣し、被災者及びボランティアの健康観察や熱中症の注意喚起を行いました。また、令和6年能登半島地震災害においては、被災医療機関支援として市立輪島病院へ看護師を2名派遣し、病棟業務や外来業務に従事しました。

地域の防災対策では、赤十字病院として各関係医療機関と共に、飯塚医療圏災害前医療介護連携システムの構築に努めているところです。

院内においては、病院研究発表会やミニTQM（業務発表会）を開催するなど医療の質の向上にも努めています。

令和4年度に続いて新型コロナウイルス感染症が病院経営と診療体制に大きな影響を及ぼしましたが、感染拡大状況に配慮しながら健康診断及び特定保健指導等を継続しました。予防医療による地域の健康管理を推進し、在宅療養支援病院として付随する在宅サービス部門との連携により、地域住民の医療・看護と介護との一体的なサービス提供に努めるとともに、地域における公的医療機関として発熱症状の救急患者を含めて、夜間休日の救急搬送患者も積極的に受け入れています。



大雨災害に対する職員派遣(東峰村)



病院研究発表会

2. 病院の体制

令和6年3月31日現在

| 区分 施設名 | 病 床 数 | | | | | 診 療 科 目 | 職 員 数 | | | | |
|--------------|-------|----|----|----|-----|---|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------------|
| | 一般 | 療養 | 精神 | 感染 | 計 | | 年度 | 医師 | 看護師 | その他 | 計 |
| 福岡赤十字 病 院 | 509 | — | — | 2 | 511 | 内科・呼吸器内科・循環器 内科・消化器内科・肝臓内 科・血液・腫瘍内科・糖尿 病・代謝内科・内分泌内科・ 腎臓内科・感染症内科・脳 神経内科・神経内科・外科・ 呼吸器外科・心臓血管外 科・消化器外科・乳腺・内分 泌外科・移植外科・整形外 科・脳神経外科・形成外科・ 精神科・小児科・皮膚科・泌 尿器科・産婦人科・眼科・耳 鼻いんこう科・リハビリテ ーション科・放射線科・麻 酔科・救急科・歯科・歯科口 腔外科・病理診断科・リウ マチ科 | 令 和 5 年度 | 221 (34) | 567 (7) | 384 (18) | 1, 172 (59) |
| | | | | | | | 令 和 4 年度 | 213 (32) | 576 (10) | 381 (20) | 1, 170 (62) |
| 今津赤十字 病 院 | 90 | 30 | 60 | — | 180 | 内科・神経内科・胃腸科・精 神科・リハビリテーション 科・循環器科・放射線科 | 令 和 5 年度 | 13 (6) | 96 (8) | 93 (23) | 202 (37) |
| | | | | | | | 令 和 4 年度 | 13 (6) | 100 (6) | 96 (26) | 209 (38) |
| 嘉麻赤十字 病 院 | 135 | — | — | — | 135 | 内科・外科・肛門外科・眼科 ・耳鼻いんこう科・消化器 内科・循環器内科・神経内 科・整形外科・小児科・放射 線科・泌尿器科・リハビリ テーション科・精神科・皮 膚科 | 令 和 5 年度 | 51 (43) | 77 (8) | 104 (16) | 232 (67) |
| | | | | | | | 令 和 4 年度 | 50 (43) | 86 (12) | 92 (14) | 228 (69) |
| 計 | 734 | 30 | 60 | 2 | 826 | | 令 和 5 年度 | 285 (83) | 770 (23) | 581 (57) | 1, 636 (163) |
| | | | | | | | 令 和 4 年度 | 276 (81) | 762 (28) | 569 (60) | 1, 607 (169) |

() は臨時職員・パート (内数)

3. 患者状況

(1) 入院

| 区分 施設名 | 年 度 | 取扱患者数 | | 一日平均 患者数 | 平均在院 日数 | 病床利用率 (%) | 診療単価 (円) |
|--------------|---------|--------|---------|-------------|------------|--------------|-------------|
| | | 新患者数 | 延 数 | | | | |
| 福岡赤十字 病 院 | 令和 5 年度 | 15,517 | 164,149 | 448.5 | 10.3 | 88.8 | 90,801 |
| | 令和 4 年度 | 15,089 | 162,628 | 445.6 | 10.5 | 88.2 | 88,980 |
| 今津赤十字 病 院 | 令和 5 年度 | 359 | 53,534 | 146.3 | 113.8 | 81.3 | 23,453 |
| | 令和 4 年度 | 398 | 53,211 | 145.8 | 107.6 | 81.0 | 24,041 |
| 嘉麻赤十字 病 院 | 令和 5 年度 | 696 | 32,780 | 89.6 | 45.8 | 67.3 | 29,220 |
| | 令和 4 年度 | 702 | 35,115 | 96.2 | 49.1 | 72.3 | 29,140 |
| 計 | 令和 5 年度 | 16,572 | 250,463 | 684.4 | — | — | — |
| | 令和 4 年度 | 16,189 | 250,954 | 687.6 | — | — | — |

(2) 外来

| 区分 施設名 | 年 度 | 取扱患者数 | | 一日平均患者数 | 平均通院日数 | 診療単価(円) |
|--------------|---------|--------|---------|---------|--------|---------|
| | | 新患者数 | 延 数 | | | |
| 福岡赤十字 病 院 | 令和 5 年度 | 25,390 | 237,111 | 975.8 | 9.4 | 22,308 |
| | 令和 4 年度 | 26,525 | 237,933 | 979.1 | 9.7 | 22,151 |
| 今津赤十字 病 院 | 令和 5 年度 | 398 | 16,612 | 68.6 | 41.7 | 12,805 |
| | 令和 4 年度 | 407 | 17,798 | 73.2 | 43.7 | 13,006 |
| 嘉麻赤十字 病 院 | 令和 5 年度 | 4,101 | 43,556 | 179.2 | 10.6 | 12,147 |
| | 令和 4 年度 | 4,730 | 44,134 | 181.6 | 9.3 | 12,803 |
| 計 | 令和 5 年度 | 29,889 | 297,279 | 1,223.6 | — | — |
| | 令和 4 年度 | 31,662 | 299,865 | 1233.9 | — | — |

10 血液事業

血液事業は、血液を提供いただける方を募集し、その血液を採取して血液製剤を作り、治療を必要とする方々のため医療機関へ血液製剤を供給するという一連の流れを担っています。

国内で使用される輸血用血液製剤は、健康な方々から無償で血液を提供いただく『献血』により作られており、国、都道府県や市町村をはじめ、多くの企業やボランティア、国民の皆さまの協力により成り立っています。

医療機関の需要を予測して献血へのご協力をお願いし、適切な血液量を確保したうえで、医療機関に安定的に血液製剤を届ける必要があることから、献血者確保が最重要課題であり、献血思想の普及を図るため様々な活動を推進しています。

1. 血液センターの事業概要

(1) 献血者確保

ア. 若年層対策

より若い年代から献血に触れ合う機会を増やすため、青少年触れ合い事業の一環として「はたちの献血キャンペーン」にてキッズ献血（模擬体験）を、また小学校や青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンター、及び高等学校においては献血セミナーを行うことにより献血への理解を深めていただく活動を行いました。

大学では、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止していた学生献血推進協議会の合同研修会を再開し、改めて献血の重要性や知識を深化させ、SNSを活用した情報発信を積極的に行うなど若年層の献血者確保に努めました。

その他、学生献血推進協議会が中心となり、「博多どんたく港祭り」や「学生献血サマーキャンペーン」、「全国学生クリスマス献血キャンペーン」、「はたちの献血キャンペーン」等のイベントを開催するなど、様々な活動を展開し、県民に向けて広く普及活動を行いました。

イ. 複数回献血者の確保

令和4年9月から全国一斉に献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の公式アプリが導入され、献血サービスの向上を目的に新規会員の登録者確保に努めました。結果、献血協力依頼のメール配信数も順調に増加し、献血依頼やキャンペーン情報を迅速に配信することで、献血予約率並びに複数回献血者数の向上に繋がりました。（福岡県内登録者数 約 14.8 万人 令和6年3月現在）

ウ. スポーツ団体との献血啓発活動

福岡ソフトバンクホークス主催の「ファイト！九州デー」、Jリーグに協賛する明治安田生命保険相互会社主催の「シャレンで献血」、九州電力株式会社のラグビーチーム九州電力キューデンヴォルテクス等、スポーツ団体とタイアップし試合に併せ献血を実施し、新たな献血者層の開拓に努めました。

エ. 献血功労者表彰式

福岡県内において、血液事業の推進に貢献した地域組織、事業所、学校、団体等に対して表彰式を行い、献血推進に対する意欲向上に努めました。



高校献血



学生ボランティアによる献血呼びかけ
（「博多どんたく港まつり」パレード）



イベント会場での献血バスにおける全血献血
（明治安田生命「シャレンで献血」）



献血功労者表彰式

（2）血液製剤の安定供給

医療機関における短中長期を見据えた輸血用血液製剤の使用状況等の情報を収集分析し、需給予測を行い安定供給に努めました。また、適正な供給体制に向けて緊急走行による配送の低減、定時配送及び血液製剤発注システム（WEB 発注システム）の利用促進に取り組みました。

（3）地域医療機関への技術協力

福岡県合同輸血療法委員会の作業部会として、タスクフォース委員会と看護師部会が設置され、輸血医療に携わる臨床検査技師、看護師を対象とした輸血研修会を開催しています。令和5年度は、看護師部会が主となり、学会認定看護師を対象とした輸血研修会を開催しました。

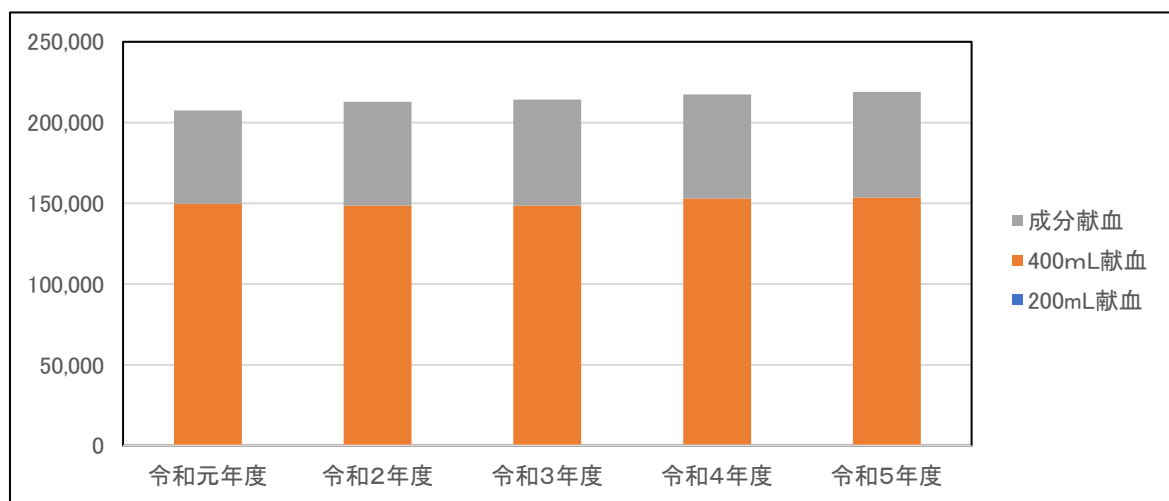
2. 福岡県内における献血及び供給の状況

(1) 献血状況

ア. 献血者の実績

令和5年度の福岡県における献血者数は218,938人で対前年度比100.7%でした。献血ルームにおいて400mL献血の確保強化を図るなど、輸血用血液製剤の安定確保に努めました。

| 献血者数 | | | | | | (人) | (%) |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|-----|
| | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 前年比 | |
| 200mL | 51 | 65 | 231 | 568 | 396 | 69.7 | |
| 400mL | 149,808 | 148,546 | 148,329 | 152,530 | 153,267 | 100.5 | |
| 成分 | 57,567 | 64,262 | 65,621 | 64,395 | 65,275 | 101.4 | |
| 計 | 207,426 | 212,873 | 214,181 | 217,493 | 218,938 | 100.7 | |



イ. 年代別献血者の推移

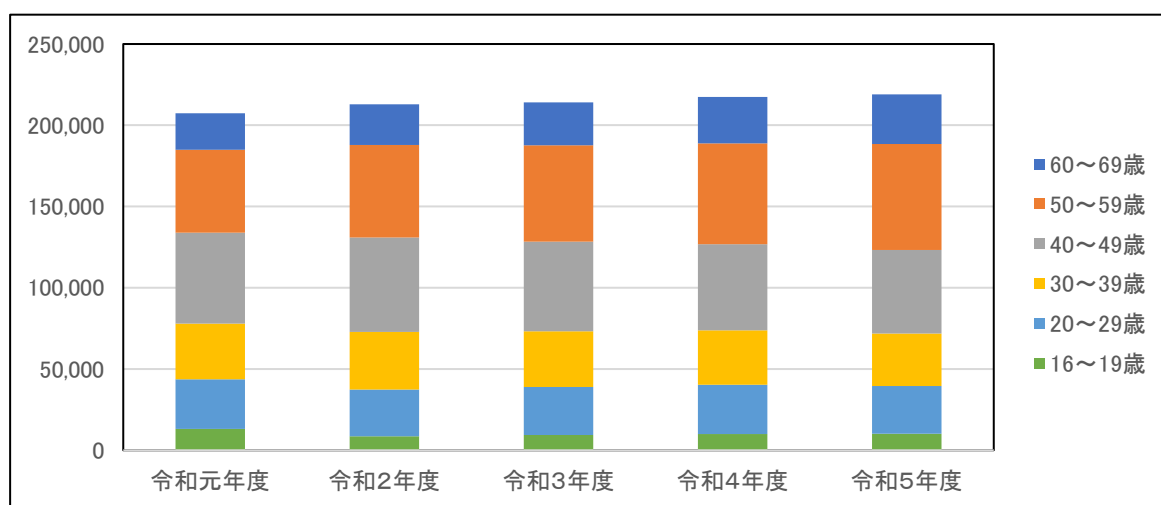
福岡県の年代別献血状況は、令和4年度と比較し、大学献血における献血者数は増加しましたが、リモートワークの定着等による影響もあり、20～49歳の各年代で献血者が減少しました。逆に、コロナ禍により休止していた高校献血が復活してきたことで10代の献血者は増加し、更に商業施設での実施回数が増えたことで50歳以上の各年代でも増加しました。

年代別献血者数

(人)

(%)

| | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 前年比 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 16～19 歳 | 13,230 | 8,560 | 9,381 | 10,025 | 10,293 | 102.7 |
| 20～29 歳 | 30,447 | 28,765 | 29,580 | 30,295 | 29,309 | 96.7 |
| 30～39 歳 | 34,308 | 35,482 | 34,258 | 33,449 | 32,320 | 96.6 |
| 40～49 歳 | 55,877 | 58,220 | 55,150 | 53,113 | 51,370 | 96.7 |
| 50～59 歳 | 51,076 | 56,885 | 59,255 | 61,991 | 65,230 | 105.2 |
| 60～69 歳 | 22,488 | 24,961 | 26,557 | 28,620 | 30,416 | 106.3 |
| 計 | 207,426 | 212,873 | 214,181 | 217,493 | 218,938 | 100.7 |



(2) 供給状況

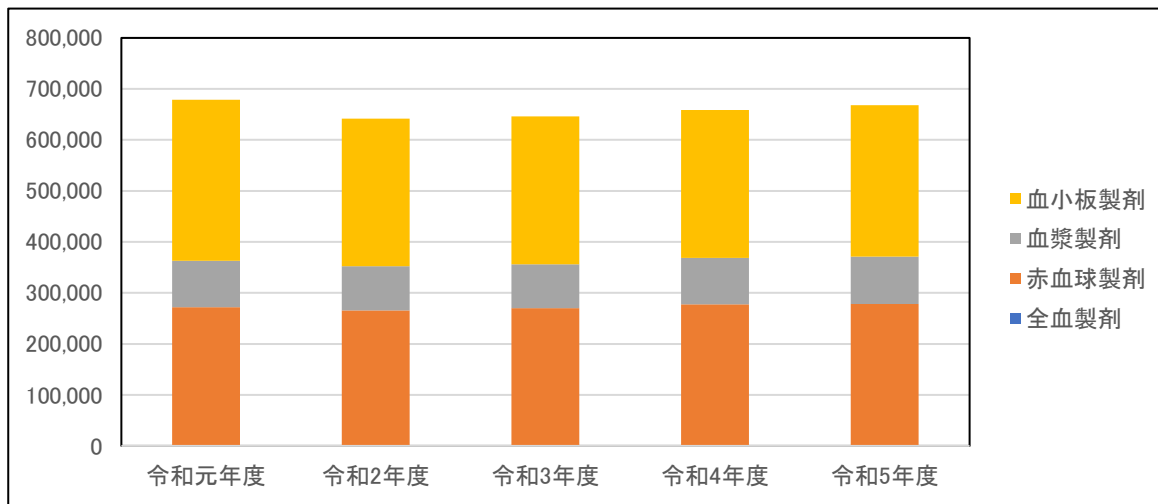
福岡県の輸血用血液製剤の供給状況は、平成30年度から減少していましたが、令和3年度から増加に転じています。新型コロナウイルス感染症による医療機関の診療制限や手術延期などが続いていたが、徐々に診療体制も確立されてきたこと等が要因と考えられます。

供給単位数

(200mL 換算単位)

(%)

| | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 前年比 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 全血製剤 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.0 |
| 赤血球製剤 | 271,814 | 266,003 | 269,824 | 277,734 | 278,073 | 100.1 |
| 血漿製剤 | 91,076 | 86,527 | 86,466 | 90,639 | 92,837 | 102.4 |
| 血小板製剤 | 316,140 | 288,995 | 290,130 | 290,135 | 297,415 | 102.5 |
| 計 | 679,030 | 641,525 | 646,420 | 658,508 | 668,325 | 101.5 |



（３）医薬情報活動の状況

福岡県内の医療機関に対して、輸血用血液製剤の適正使用や取扱い等の説明会及び輸血療法に関する情報提供を積極的に実施し、医療安全に努めています。令和５年度は、要請があった医療機関で開催しました。

○令和５年度 医療機関への説明会

| | |
|------|------|
| 開催数 | ２６回 |
| 参加総数 | ６３０人 |

○第 27 回福岡県合同輸血療法委員会

福岡県保健医療介護部薬務課主催「福岡県合同輸血療法委員会」は、新型コロナウイルス感染症感染防止対策を徹底し、福岡県庁にて集合型会議での開催となりました。

| | |
|-------|---------------------|
| 開催日 | 令和 6 年 2 月 1 5 日（木） |
| 開催方法 | 集合型会議 |
| テーマ | 「福岡県の輸血を取り巻く現状」 |
| 参加施設数 | 95 施設 |
| 主催 | 福岡県保健医療介護部薬務課 |

3. 職員数の状況

毎年度、血液事業本部からその事業規模に応じた職員数が定められ（職員定数）、その範囲内で事業運営をすることになっています。

| | 管理 | 総務 | 品質 | 医務 | 献血 推進 | 採血 | 学術 供給 | 検診医 など | 計 |
|-----------|----------|-----------|----------|----------|------------|-------------|------------|------------|--------------|
| 令和 5年度 | 4 (0) | 14 (2) | 3 (0) | 3 (1) | 84 (36) | 112 (12) | 66 (48) | 30 (30) | 316 (129) |
| 令和 4年度 | 3 (0) | 16 (2) | 3 (0) | 3 (1) | 83 (37) | 111 (12) | 67 (51) | 30 (30) | 316 (133) |

（ ）は、各年度末の非正規職員数（内数）

11 社会福祉事業

特別養護老人ホームは、依然として厳しい経営環境にある中、新型コロナウイルス感染症対策の徹底や、更なる人材確保や育成を図り、利用者の方々が安全・安心で快適に生活できるよう経営基盤の強化に努めています。

また、良質な介護サービスの提供を行うため、介護現場への IT 化や資質向上に向けた介護研修への受講を推進しました。

1. 社会福祉施設の事業概要

(1) 特別養護老人ホーム大寿園

ア. 魅力あふれる施設づくり

(ア) 施設内での新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ感染症等の感染症防止対策を行いながら、園内行事の企画やボランティア活動の受入を再開。

イ. 介護職員の安定確保・人材育成

(ア) 求人情報誌やオンライン求人サイトへの掲載、人材派遣等を活用した人材確保及びシニア世代の働き手を採用。

(イ) 良質な介護サービス提供と職員のスキルアップを図るため、e ラーニングを活用した教育環境の整備や施設内実技研修を実施。

(ウ) LINEWORKS や Teams の活用を進め、ICT 機器の利用を活性化するために通信機器及び無線環境を整備。

ウ. 施設設備の改修

(ア) 行政等の各種補助金や移行時積立金等を活用し、老朽化した施設設備を更新・整備するとともに、利用者が安心して暮らすことができ、また職員が安全に働くことができる環境づくりを実施。

エ. 経営の安定化

(ア) 介護、看護が連携したケアを提供し、入院を最小限に抑え、円滑なベッドコントロールにより空床状態を解消し、利用率向上に向けた取り組みを実施。



秋祭り



クリスマス会

(2) 特別養護老人ホームやすらぎの郷

ア. 各部門（特養・ショート・デイサービス）での利用者確保

- (ア) 安定的な利用者確保のため、デイサービスから特養の利用まで、切れ目ないサービスを受けられる施設であり、“看取り介護”が可能な施設であることのPRを継続実施。
- (イ) コロナの影響を大きく受けたデイサービスの定員を30人から35人へ変更し、定員枠の拡大による利用者確保。
- (ウ) 居宅介護支援事業所のケアマネジャーを2人体制に変更し、デイサービスやショートステイの利用率向上。

イ. 利用者の安全性及びサービスの向上・職場環境の改善

- (ア) 特養東棟内ホール床改修工事により、段差を無くし安全性を確保。
- (イ) 新型コロナウイルス及びインフルエンザ等の感染症対策の見直しと、マニュアルの改訂。
- (ウ) 見守りカメラの有効活用による転倒防止などのリスクマネジメントを実施。
- (エ) リクライニング機能が充実した介護ベッドに一部更新し、嚥下機能が低下している入所者の誤嚥予防と介護職員の食事介助の負担を軽減。

ウ. 地域との連携・交流活動

- (ア) 志免町『認知症初期集中支援チーム』の一員として当施設の主任ケアマネジャーが参画、地域における認知症等の早期発見および対応に貢献。
- (イ) 宇美商業高等学校からの定期的な施設訪問を受入れ、手品や紙芝居などを通して利用者との交流活動を実施。
- (ウ) 税理士や葬儀会社の方を講師として、老後のお金のことをテーマとした、もっとクロス講座“地域と老いを考える会”を開催。

エ. ボランティア活動団体や利用者ご家族との連携強化

- (ア) 地域のボランティアの方々による草刈りおよび清掃活動の受け入れを実施。
- (イ) 感染症の発生状況に留意しながら、ご家族と利用者の対面式での面会機会を拡充。

オ. 職員研修の充実と促進

- (ア) 認知症介護の質の向上を目的とした認知症介護実践者研修や認知症介護リーダー研修の受講を継続して推進。
- (イ) 介護課程を通じた職員のスキルアップのための介護福祉士実習指導者講習会を受講させるなど研修の充実。



ボランティアの方との清掃活動



「もっとクロス講座」の開催

（３）特別養護老人ホーム豊寿園

ア. 新型コロナウイルス感染症他各種感染症の予防

- （ア）北九州市による事業支援を受け、全職員が週２回の抗原検査を実施する感染予防策を実施。
- （イ）アフターコロナでの新たな面会方法（未就学児禁止、居室棟外での事前予約制）を実施。

イ. 介護体制の更なる充実。

- （ア）福岡県介護ロボット導入補助金を活用した見守り機器の導入。
- （イ）ＪＫＡ補助金を活用したモジュール型車いすの更新。

ウ. 福祉人材の安定確保

- （ア）高等学校福祉科との連携と実習生の受け入れ。
- （イ）派遣労働者やシニア層の活用。

エ. 職員の資質向上や職場環境の整備

- （ア）介護職員のスキルアップのため、喀痰吸引等研修への参加。
- （イ）介護支援専門員資格の取得に向けた勉強会の開催やテキスト代等の助成。

オ. ボランティアと地域福祉の連携強化

- （ア）社会福祉協議会や地域小中学校との連携再開と、出前講習の実施。
- （イ）地域の保育園児、小学校児童との交流会の再開。



地域交流

（地域保育園への利用者様訪問・交流会）



地域交流

（地域小学校への福祉体験授業）

2. 社会福祉施設の体制

令和6年3月31日現在

| 区分 施設名 | サービス内容・定員数 | 職員数 | | | | | |
|-----------|-----------------|-------------|-----------|-------------|-----------|------------|--------------|
| | | 年度 | 事務職 | 介護職 | 看護職 | その他 | 計 |
| 大 寿 園 | 特別養護老人ホーム 150 人 | 令 和 5 年度 | 7 (2) | 64 (18) | 9 (6) | 28 (22) | 108 (48) |
| | ショートステイ 8 人 | | | | | | |
| | デイサービス 30 人 | 令 和 4 年度 | 6 (1) | 63 (17) | 10 (7) | 35 (23) | 114 (48) |
| | ケアプランセンター — | | | | | | |
| やすらぎの郷 | 特別養護老人ホーム 100 人 | 令 和 5 年度 | 6 (0) | 55 (13) | 6 (1) | 19 (16) | 86 (30) |
| | ショートステイ 20 人 | | | | | | |
| | デイサービス 30 人 | 令 和 4 年度 | 6 (1) | 57 (19) | 7 (1) | 20 (17) | 90 (38) |
| | ケアプランセンター — | | | | | | |
| | ケアハウス 20 人 | | | | | | |
| 豊 寿 園 | 特別養護老人ホーム 100 人 | 令 和 5 年度 | 6 (2) | 45 (4) | 6 (0) | 21 (20) | 78 (26) |
| | ショートステイ 20 人 | | | | | | |
| | デイサービス 12 人 | 令 和 4 年度 | 7 (2) | 51 (12) | 6 (0) | 28 (25) | 92 (39) |
| | ケアプランセンター — | | | | | | |
| 計 | 特別養護老人ホーム 350 人 | 令 和 5 年度 | 19 (4) | 164 (35) | 21 (7) | 68 (58) | 272 (104) |
| | ショートステイ 48 人 | | | | | | |
| | デイサービス 72 人 | 令 和 4 年度 | 19 (4) | 171 (48) | 23 (8) | 83 (65) | 296 (125) |
| | ケアプランセンター — | | | | | | |
| | ケアハウス 20 人 | | | | | | |

臨時職員・パート（内数）

3. 利用者状況

| 区分 施設名 | サービス内容 | | 令和5年度 | | | 令和4年度 | | |
|-----------|-----------|-----|---------|--------------|------------|---------|--------------|------------|
| | | | 延利用者数 | 一日平均 利用者数 | 利用率 (%) | 延利用者数 | 一日平均 利用者数 | 利用率 (%) |
| 大 寿 園 | 特別養護老人ホーム | | 51,237 | 140.0 | 93.3 | 47,433 | 130.0 | 86.6 |
| | ショートステイ | | 1,496 | 4.09 | 51.09 | 973 | 2.7 | 33.3 |
| | デイサービス※ | 45名 | | | | 1,703 | 22.1 | 49.1 |
| | | 30名 | 6,879 | 24.0 | 21.7 | 5,340 | 23.2 | 77.3 |
| やすらぎの郷 | 特別養護老人ホーム | | 36,124 | 98.7 | 98.7 | 36,424 | 99.8 | 99.8 |
| | ショートステイ | | 3,914 | 10.72 | 53.6 | 4,407 | 12.07 | 60.4 |
| | デイサービス | | 6,364 | 21.72 | 83.19 | 5,006 | 17.94 | 65.44 |
| 豊 寿 園 | 特別養護老人ホーム | | 35,260 | 96.3 | 96.3 | 34,676 | 95.26 | 95.0 |
| | ショートステイ | | 4,408 | 12.0 | 60.5 | 3,765 | 10.34 | 51.5 |
| | デイサービス | | 2,088 | 5.7 | 48.0 | 2,437 | 7.15 | 59.5 |
| 計 | 特別養護老人ホーム | | 122,621 | 335 | － | 118,533 | 325.06 | － |
| | ショートステイ | | 9,818 | 26.81 | － | 9,145 | 25.11 | － |
| | デイサービス | | 15,331 | 51.42 | － | 14,486 | 70.39 | － |

※大寿園のデイサービスについて、令和4年7月1日に定員を変更（45名から30名）しているため2段にて表示。

主 な 行 事

4
月

- 救急法基礎講習
- 日本赤十字九州国際看護大学入学式（宗像市）

10
月

- 福岡市市民総合防災訓練（福岡市）
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 健康生活支援講習 支援員養成講習
- 救急法等臨時指導員研修会
- 地域包括ケア担当者会議
- 紺綬会常任委員会議
- 第6ブロック赤十字奉仕団委員長会議

5
月

- 赤十字運動月間キャンペーン
- レッドライトアッププロジェクト
- 福岡県総合防災訓練（朝倉市）
- 令和5年度遠賀川総合水防演習（飯塚市）
- 救護員育成訓練（共通過程：動画視聴形式）
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 福岡県青少年赤十字指導者協議会総会
- 全国赤十字大会（東京都）
- 地区（本部）分区赤十字担当者研修会
- 管内施設業務監査
- 支部業務監査
- 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター 指導者養成講習会

11
月

- 令和5年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練（飯塚市）
- 福岡市災害対策本部図上訓練（福岡市）
- 福岡市防災フェア（福岡市）
- 九州八県赤十字大会（佐賀県）
- 福岡マラソン2023臨時救護
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 幼児安全法支援員養成講習
- 令和5年度献血功労者表彰式（福岡市）
- 福岡県日赤紺綬会第63回総会（福岡市）
- 青少年赤十字国際交流集会

6
月

- 救護医師、救護看護師基礎・応用合同訓練（福岡市）
- 救護主事基礎訓練（福岡市）
- 救護主事応用訓練（久留米市）
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 幼児安全法支援員養成講習
- 教職員対象着衣泳体験指導講習
- 令和5年度第1回評議員会
- 福岡県青少年赤十字高校連絡協議会 学習会（第1回）
- 青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会
- 福岡県青少年赤十字指導者養成講習会（第1回）

12
月

- 九州八県支部合同災害救護訓練（鹿児島県）
- 北九州市市防災フェア（北九州市）
- 救急法基礎講習
- 幼児安全法指導員養成講習 説明会・事前研修会
- 「NHK海外たすけあい」キャンペーン
- 福岡県青少年赤十字高校連絡協議会 学習会（第2回）

7
月

- 第59回献血運動推進全国大会（千葉県）
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 健康生活支援講習 支援員養成講習
- 福岡県青少年赤十字国際交流事業【釜山受入】

1
月

- 福岡県国民保護図上訓練（福岡市）
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 救急法指導員養成講習 説明会・事前研修会
- 幼児安全法指導員養成講習

8
月

- 福岡空港航空機事故対策部分訓練（福岡市）
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 水上安全法救助員Ⅰ養成講習（みやま市）
- 地域包括ケア担当者会議
- 福岡県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター（福岡市・北九州市）
- 九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会
- 福岡県青少年赤十字高校連絡協議会総会
- 福岡県青少年赤十字指導者養成講習会（第2回）

2
月

- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 救急法指導員養成講習
- 地区（本部）分区赤十字担当者会議
- 令和5年度第2回評議員会
- 永年勤続者表彰式
- 福岡県青少年赤十字研究会

9
月

- 支部救護班総合訓練（久留米市）
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 赤十字救急フェスティバル（粕屋町）
- 相続・遺言・寄付セミナー

3
月

- 事業推進業務連絡会議
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 救急法新任指導員研修会
- 幼児安全法新任指導員研修会
- 救急法・水上安全法指導員研修会
- 健康生活支援講習・幼児安全法指導員研修会
- 地域包括ケア担当者会議
- 紺綬会常任委員会議
- 日本赤十字九州国際看護大学卒業式（宗像市）
- 福岡県青少年赤十字高校連絡協議会年度末集会
- 青少年赤十字スタディー・センター

支 部 管 内 施 設

令和6年4月1日現在

支 部

| 施 設 名 | 事務局長 | 所 在 地 | 電 話 番 号 |
|-------------|-------|-------------------------|--------------|
| 日本赤十字社福岡県支部 | 後藤 和孝 | 〒815-8503 福岡市南区大楠3-1-1 | 092-523-1171 |
| 久留米赤十字会館 | | 〒839-0801 久留米市宮ノ陣3-4-27 | 0942-36-5858 |

病 院

| 施 設 名 | 院 長 | 所 在 地 | 電 話 番 号 |
|---------|-------|------------------------|--------------|
| 福岡赤十字病院 | 中房 祐司 | 〒815-8555 福岡市南区大楠3-1-1 | 092-521-1211 |
| 今津赤十字病院 | 藤井 弘二 | 〒819-0165 福岡市西区今津377 | 092-806-2111 |
| 嘉麻赤十字病院 | 安部 健司 | 〒821-0012 嘉麻市上山田1237 | 0948-52-0861 |

血液センター

| 施 設 名 | 所 長 | 所 在 地 | 電 話 番 号 |
|------------------------|--------|--|--------------|
| 福岡県赤十字血液センター | 熊川 みどり | 〒818-8588 筑紫野市上古賀1-2-1 | 092-921-1400 |
| 福岡県赤十字血液センター 北九州事業所 | | 〒806-0044 北九州市八幡西区相生町15-1 | 093-631-1211 |
| 献血ルーム おっしょい博多 | | 〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街2-1 博多バスターミナル8階 | 092-476-1400 |
| 献血ルーム キャナルシティ | | 〒812-0018 福岡市博多区住吉1-2-25 キャナルシティ・ビジネスセンタービル1階 | 092-272-5853 |
| 献血ルーム 天神西通り | | 〒810-0001 福岡市中央区大名1-15-1 天神西通りスクエア 地下1階 | 092-726-1188 |
| 献血ルーム 魚町銀天街 | | 〒802-0006 北九州市小倉北区魚町1-3-3 | 093-551-1211 |
| 献血ルーム くらさきクローバー | | 〒806-0036 北九州市八幡西区西曲里町3-1 イオンタウン黒崎1階 | 093-644-1211 |

社会福祉施設

| 施 設 名 | 園 長 | 所 在 地 | 電 話 番 号 |
|-----------------|--------|----------------------------|--------------|
| 特別養護老人ホーム大寿園 | 森下 亨 | 〒819-0165 福岡市西区今津520 | 092-806-6100 |
| 特別養護老人ホームやすらぎの郷 | 荒木 ひとみ | 〒811-2208 粕屋郡志免町大字吉原600 | 092-936-2022 |
| 特別養護老人ホーム豊寿園 | 熊本 貴志 | 〒800-0112 北九州市門司区大字畑1808-5 | 093-481-1121 |

看護大学

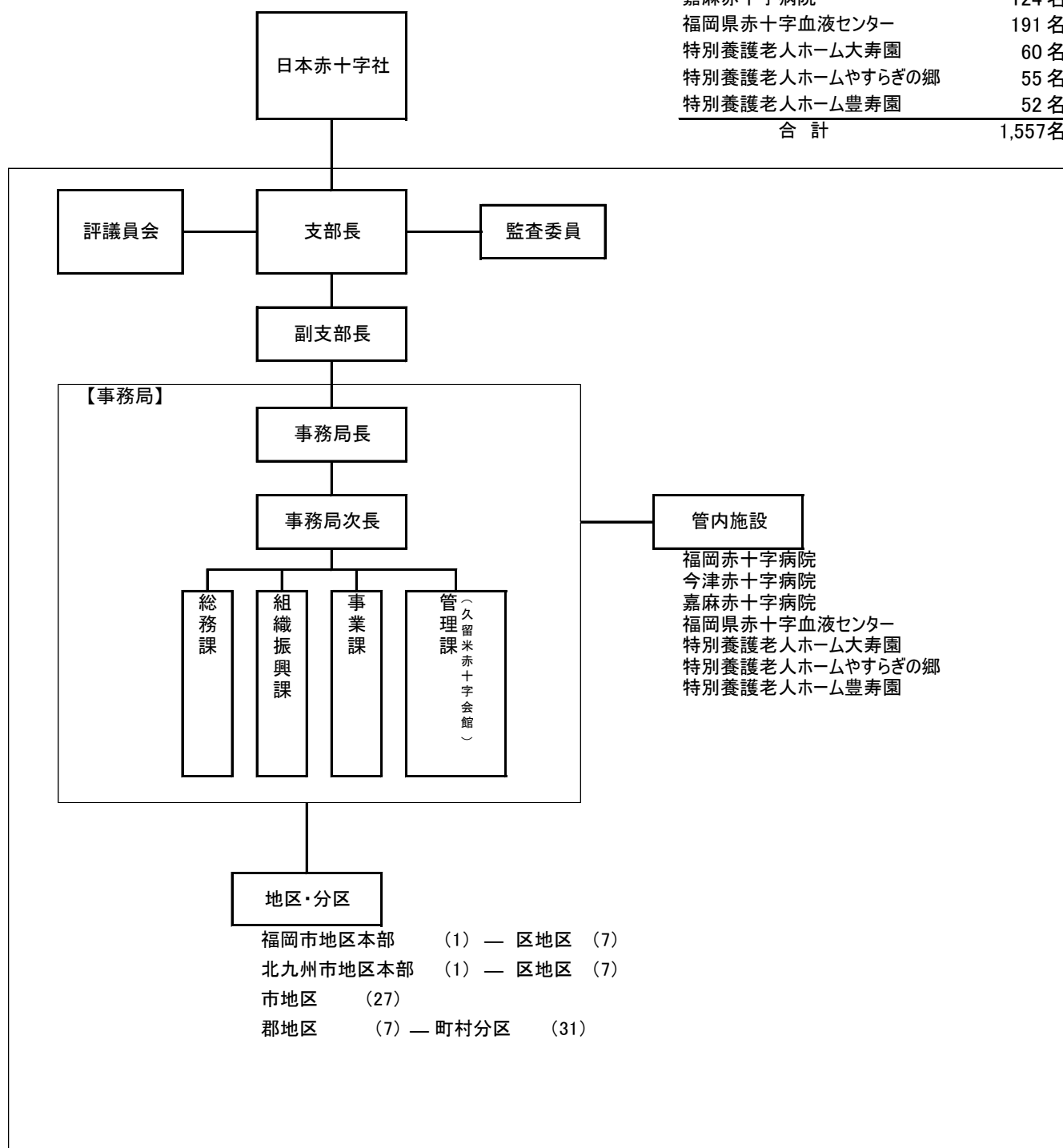
| 施 設 名 | 学 長 | 所 在 地 | 電 話 番 号 |
|------------------------------|-------|----------------------|--------------|
| 学校法人日本赤十字学園 日本赤十字九州国際看護大学 | 池松 裕子 | 〒811-4157 宗像市アスティ1-1 | 0940-35-7001 |

支部機構

令和6年4月1日現在

【正職員数】

| | |
|-----------------|--------|
| 日本赤十字社福岡県支部 | 20名 |
| 福岡赤十字病院 | 925名 |
| 今津赤十字病院 | 130名 |
| 嘉麻赤十字病院 | 124名 |
| 福岡県赤十字血液センター | 191名 |
| 特別養護老人ホーム大寿園 | 60名 |
| 特別養護老人ホームやすらぎの郷 | 55名 |
| 特別養護老人ホーム豊寿園 | 52名 |
| 合 計 | 1,557名 |



【関係団体】

日本赤十字九州国際看護大学

【本社直轄施設】

日本赤十字社九州ブロック血液センター

支部役員名簿

令和6年4月1日現在

評議員(69名)

| 役職 | 氏 名 |
|---------------|-----------|
| 支 部 長 | 服 部 誠 太 郎 |
| 副支部長 (2名) | 大 曲 昭 恵 |
| | 白 石 博 昭 |
| 監査委員 (2名) | 森 山 敦 文 |
| | 平 島 研 二 |
| 本社理事 (1名) | 荒 牧 智 之 |
| 本社代議員 (9名) | 高 島 宗 一 郎 |
| | 武 内 和 久 |
| | 井 上 澄 和 |
| | 美 浦 喜 明 |
| | 木 下 幸 子 |
| | 荒 牧 智 之 |
| | 澁 田 繁 晴 |
| | 津 村 洋 一 郎 |
| | 日 向 祥 剛 |

| No. | 氏 名 |
|-----|-----------|
| 1 | 山 地 正 樹 |
| 2 | 北 原 明 彦 |
| 3 | 澁 田 繁 晴 |
| 4 | 平 野 能 章 |
| 5 | 三 亀 幹 治 |
| 6 | 高 島 宗 一 郎 |
| 7 | 武 内 和 久 |
| 8 | 今 井 是 生 |
| 9 | 木 下 幸 子 |
| 10 | (欠) |
| 11 | 池 松 裕 子 |
| 12 | 藤 田 秀 之 |
| 13 | 平 田 成 人 |
| 14 | 高 木 三 郎 |
| 15 | 井 口 宏 樹 |
| 16 | 内 藤 玲 子 |
| 17 | 西 村 孝 志 |
| 18 | 満 生 美 保 |
| 19 | 大 園 喜 代 香 |
| 20 | 谷 延 正 夫 |
| 21 | 島 本 喜 多 江 |
| 22 | 天 本 克 己 |
| 23 | 中 村 啓 子 |
| 24 | 日 々 谷 健 司 |
| 25 | 北 原 正 利 |

| No. | 氏 名 |
|-----|-----------|
| 26 | 奥 野 静 人 |
| 27 | 大 石 紀 代 子 |
| 28 | 喜 洲 淳 哉 |
| 29 | 森 川 満 |
| 30 | 池 永 紳 也 |
| 31 | 太 田 康 子 |
| 32 | 森 川 洋 一 |
| 33 | 浜 和 枝 |
| 34 | 川 崎 勝 之 |
| 35 | 横 溝 敏 子 |
| 36 | 松 島 哲 也 |
| 37 | 村 津 正 祐 |
| 38 | 武 井 政 一 |
| 39 | 井 上 節 子 |
| 40 | 村 上 卓 哉 |
| 41 | 金 子 健 次 |
| 42 | 三 田 村 統 之 |
| 43 | 西 田 正 治 |
| 44 | 倉 重 良 一 |
| 45 | 工 藤 政 宏 |
| 46 | 後 藤 元 秀 |
| 47 | 福 田 浩 |
| 48 | 平 井 一 三 |
| 49 | 井 上 澄 和 |
| 50 | 井 本 宗 司 |

| No. | 氏 名 |
|-----|-----------|
| 51 | 加 地 良 光 |
| 52 | 伊 豆 美 沙 子 |
| 53 | 楠 田 大 蔵 |
| 54 | 月 形 祐 二 |
| 55 | 田 辺 一 城 |
| 56 | 原 崎 智 仁 |
| 57 | 高 木 典 雄 |
| 58 | 塩 川 秀 敏 |
| 59 | 林 裕 二 |
| 60 | 赤 間 幸 弘 |
| 61 | 松 嶋 盛 人 |
| 62 | 武 末 茂 喜 |
| 63 | 安 川 茂 伸 |
| 64 | 古 野 修 |
| 65 | 永 松 鎮 生 |
| 66 | 田 嶋 浩 俊 |
| 67 | 広 松 栄 治 |
| 68 | 道 廣 幸 |
| 69 | 遠 田 孝 一 |

支部沿革

| 年 月 日 | あ ゆ み |
|-------------|--|
| 明治21年12月17日 | 福岡県兵事課内に委員部設置（委員長に安場保和知事就任） |
| 12月28日 | 第1回の社員章及び締盟状授与式を行う（正社員130名） |
| 明治27年9月7日 | 福岡県委員部が支部に昇格（初代支部長に岩崎小二郎知事就任） |
| 10月 | 支部に速成看護婦養成所設立 |
| 明治29年11月7日 | 支部第1回社員総会を開く 佐野社長の大演説あり（社員3,500名出席） |
| 明治33年10月 | 赤十字表礼を作って社員の門戸に掲示する （後に全国的に普及することとなる） |
| 明治35年5月16日 | 支部庁舎新築落成式 |
| 明治37年2月15日 | 篤志看護婦人会福岡支会発会式（初代支会長に深野次子知事夫人就任） |
| 明治39年2月 | 福岡支部所管の第114救護班（看護人組織）22名仁川に出発 （日本赤十字社が戦地に救護班を派遣した最初である） |
| 明治40年7月20日 | 日露戦争救護活動終了 （福岡支部から医師8、薬剤師3、婦長9、看護婦46、看護人44、計113名派遣） |
| 明治43年4月 | 田川郡豊国炭坑ガス爆発（230名死亡。50名負傷）に支部救護班派遣 |
| 大正3年11月17日 | 支部第2回社員総会へ閑院総裁宮殿下ご台臨 |
| 大正5年11月11日 | 第1回篤志看護婦人会福岡支会総会も同時に開催、閑院宮妃殿下ご台臨 |
| 大正9年5月20日 | 支部召集第84救護班24名を青島に派遣 |
| 5月 | 天皇陛下を迎え福岡県下で陸軍特別大演習が実施され、支部は7個救護班を編成して演習に参加 |
| 11月8日 | 全国に先駆け県下全市郡の巡回診療を開始 |
| 大正11年11月 | 門司、若松に診療所開設（全国でわずか5診療所開設） |
| 大正12年9月1日 | 陸軍特別大演習が福岡、大分県下で実施、築上郡東吉富村に救護所3ヶ所を設置 |
| 10月 | 戸畑診療所開設 |
| 昭和4年7月1日 | 関東地方に大震災発生、支部救護班は2日に出発、3日に入京し救護にあたる |
| 8月2日 | 4日に後続2個班出発（医師6、看護婦33、事務3、計42名 取扱患者延19,721名） |
| 昭和5年3月30日 | （全国44支部・83ヶ班・患者実数562,380名・救護員4,466名） |
| 昭和6年8月 | 福岡支部に少年赤十字誕生 |
| 昭和6年9月 | 今津村所在結核療養所を5万円で買収、今津療養院と改称 |
| 昭和7年1月5日 | （45床、職員14名、初代院長に秋武六一郎就任） |
| 3月7日 | 夏季児童保養所を初めて開設 |
| 3月17日 | 日本赤十字社総裁閑院宮戴仁親王殿下のご台臨を仰ぎ、ご親授式並社員大会、青少年赤十字 |
| 10月30日 | 大会開催（20,000名参加） |
| 昭和8年4月 | 鞍手郡宮田町に宮田診療所開設 |
| 4月 | 門司市庄司元町に門司診療所開設 |
| 5月 | 満州事変に対し福岡支部から第5臨時救護班を編成、朝鮮龍山陸軍病院へ派遣（25名） |
| 6月 | 臨時第12救護班（大分支部編成）に福岡支部から看護婦2名が参加亀川海軍病院へ派遣 |
| 7月 | 中支上海に13救護班派遣 |
| 昭和9年9月 | 閑院宮殿下を迎え有功章など御親授式を行う |
| 昭和10年9月 | 遠賀郡岡垣村に岡垣診療所開設 |
| 昭和11年9月 | 行橋隣保館を福岡県より移管、行橋診療所及び行橋保育所を開設 |
| 12月 | 日本赤十字社総裁閑院宮戴仁親王殿下のご台臨を仰ぎ御親授式、今津療養院ご視察 |
| 昭和12年3月 | 福岡市須崎町支部構内に福岡診療所開設 |
| 6月 | 門司市大里に大里診療所開設 |
| 8月17日 | 福岡支部病院建設のため福岡市永田町25番地に田畝19,611坪を購入整地す（1坪4円50銭当） |
| 9月25日 | 京都郡犀川町に犀川診療所開設 |
| 9月 | 企救郡曾根町に曾根診療所開設 |
| 10月 | 支部社員数10万人を突破する |
| 昭和13年4月 | 田川郡伊田町に伊田診療所開設 |
| 昭和14年4月 | 若松市老松町に若松診療所開設 |
| 昭和14年6月 | 第84救護班召集編成病院船に派遣（班員28名） |
| | 第85救護班編成中支那上海兵站病院に派遣（班員24名） |
| | 第114救護班召集編成上海兵站病院に派遣（班員24名） |
| | 第161救護班召集編成小倉陸軍病院へ派遣（班員22名） |
| | 大牟田市に集団赤痢発生8支部より救護班派遣（死者400名、罹患10,000名を越す） |
| | 動員下令に基づき召集編成、病院船、陸軍病院、満州、北支、中支、ビルマ等へ夫々救護班を派遣 |
| | 昭和13年4月 嘉穂郡山田町に建築中の診療所竣工、支部に移管、山田診療所として発足 |
| | 昭和14年4月 今津赤十字病院に乙種救護看護婦養成所開設 |
| | 昭和14年6月 京都郡泉村に中山診療所開設 |

| 年 月 日 | あ ゆ み |
|-------------|--|
| 昭和15年11月 | 支部社員総会へ徳川囀順社長出席 |
| 昭和16年11月6日 | 徳川社長を迎え、特別社員総会を開く（来会6,000名） |
| 12月8日 | 第2次世界大戦起こる この年、2救護班を満州と南方に派遣 |
| 昭和17年10月31日 | 総裁梨本宮妃殿下を迎え篤志看護婦人会福岡支会第3回会員大会開く |
| 昭和17年12月 | 支部社員数20万人を突破す。この年救護班3班を南方へ派遣 |
| 昭和18年7月1日 | この年、5救護班を満州、華北へ派遣。支部社員数30万人を越える |
| 昭和19年5月 | 小倉市三萩野に小倉診療所開設 |
| | この年、6救護班を内地陸海軍病院へ派遣 |
| 昭和20年6月19日 | 米軍機空襲により福岡市灰燼と化し支部焼失 |
| | 支部事務所を高宮公会堂に移し、後、住吉小柳町石橋鉄工所2階に移す |
| 8月15日 | 大東亜戦争終結。当支部が昭和12年7月から内外地に派遣した救護班は32ヶ班1,223名（大阪支部に次ぐ多数） |
| | この年、4救護班を国立筑紫病院外派遣（戦時救護収拾のため） |
| 昭和22年3月 | 中山、岡垣両診療所廃止 |
| 7月 | 家庭看護法、救急法、水上安全法の普及講習会再開 |
| 8月22日 | 現在地に100坪のバラック建支部事務所を建築移転 |
| 12月 | 支部事務所の一部に福岡診療所を開設 |
| 昭和23年3月 | 今津赤十字病院乙種救護看護婦養成所閉鎖（養成数129名） |
| 4月 | 支部敷地の内10,000坪を高宮中学校建設用地に売却（200万円也） |
| 9月8日 | 小倉市第一中学校青少年赤十字団結成 10月田川郡糸田小学校3年1組結成 |
| 11月29日 | 福岡市原小学校青少年赤十字団結成 |
| 昭和24年2月3日 | 山門郡柳城中学校青少年赤十字団（170名）結成 |
| 11月 | 三潞郡木佐木村八丁牟田に三潞診療所開設 |
| 12月 | 支部庁舎完成（木造2階建延116坪）移転 |
| 昭和25年2月11日 | 支部庁舎新築落成式挙行 島津社長出席 |
| 5月 | 大里診療所、門司市大里に建物を購入移転 |
| 7月 | 浮羽郡竹野村に竹野診療所開設 |
| 昭和26年 | 支部構内に製薬所を建築、薬物研究所発足 |
| 7月 | 糸島郡前原町に糸島診療所開設 |
| 8月 | 宗像郡岬村に岬診療所開設 |
| 昭和27年10月 | 定款の改正により、福岡県支部に改称 |
| 昭和28年6月26日 | 西日本水害発生、筑後川流域及び遠賀川地区ほか13救護班派遣 |
| | 関東以西各県支部より救恤品処理応援を受ける |
| | 島津社長1週間に亘り被害現地を視察 |
| 昭和29年12月 | 福岡赤十字病院内に血液銀行開設 |
| 昭和30年3月 | 京都郡勝山町に黒田診療所開設 |
| 3月 | 支部救護資材倉庫建築 |
| 3月 | 支部救護員宿泊施設建設 |
| 昭和32年7月 | 西九州水害のため長崎県南高来郡多比良町へ救護班派遣 |
| 昭和33年4月 | 福岡赤十字高等看護学院第1回生入学 |
| | 名誉総裁皇后陛下、副総裁秩父宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、九州七県支部連合赤十字大会開催 |
| 昭和34年11月30日 | 福岡県日赤紺綬会発会式（クラブ九州にて） |
| 昭和35年5月8日 | 名誉副総裁秩父宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、九州各県支部連合災害救護演習を実施（久留米市） |
| 昭和36年3月6日 | 上清炭坑ガス爆発救護班派遣、72名死亡 |
| 3月31日 | 玄海島出張診療所を福岡市へ移管 |
| 11月30日 | 名誉総副総裁秩父宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、第1回青少年赤十字福岡県大会開催（千代小学校） |
| 昭和37年1月 | 竹野診療所廃止 |
| 3月 | 門司、曾根両診療所廃止 |
| 10月20日 | 福岡県赤十字血液銀行開設 |
| 昭和38年6月 | 若松診療所廃止 |
| 7月 | 大里診療所廃止 |
| 8月 | 福岡赤十字病院へ移管の三潞、糸島両診療所廃止 |
| 11月9日 | 三井三池炭鉱爆発事故発生に対し救護班派遣 |
| 昭和39年2月 | 集団赤痢発生、市立荒津病院へ看護婦派遣 |
| 2月 | 岬、久留米助産院、福岡薬物研究所廃止 |
| 5月1日 | 胃集団検診開始 |
| 6月 | 集団赤痢発生、宗像町、古賀町伝染病院へ看護婦派遣 |
| 昭和39年11月 | 黒田診療所廃止 |
| 昭和40年6月17日 | 名誉総副総裁秩父宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、第2回青少年赤十字福岡県大会開催 |
| 7月 | 小倉診療所廃止 |

| 年 月 日 | あ ゆ み |
|-------------|---|
| 9月 | 第1回福岡県献血運動推進大会開催 |
| 昭和41年1月 | 犀川診療所廃止 |
| 3月 | 行橋保育所を行橋市へ移管 |
| 7月 1日 | 北九州赤十字血液センター新築開設 |
| 昭和42年11月12日 | 北朝引揚帰還協定契約満了に伴い各市町村窓口を閉鎖 |
| 昭和43年3月 | 行橋診療所廃止 |
| 昭和44年5月8日 | 高松宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、九州七県支部連合赤十字大会を開催 |
| 9月 | 子宮癌集団検診開始 |
| 昭和45年2月 | 八幡診療所廃止 |
| 4月5日 | 日本航空よど号乗取り事件発生、乗客の安全確保のため板付空港に2日間救護班派遣 |
| 昭和46年3月22日 | 福岡県赤十字血液センター新築移転（須崎ビル） |
| 昭和47年11月30日 | 福岡赤十字病院本館落成 |
| 昭和49年10月31日 | 三笠宮妃殿下ご台臨のもと九州八県支部連合赤十字大会を開催 |
| 昭和50年8月27日 | 大韓赤十字社釜山直轄市支社と姉妹協定締結 |
| 昭和51年11月17日 | 常陸宮妃殿下ご台臨を仰ぎ、支部社屋並びに災害救護センター落成 |
| 昭和52年4月 | 本社創立100周年を期して支部長期事業計画策定 |
| 昭和53年7月26日 | 山田市にベトナム難民収容施設「大法園」開設（園長 伊藤愛助） |
| 10月25日 | 高松宮妃殿下ご台臨を仰ぎ、支部創設90周年記念赤十字大会を開催 |
| 昭和54年3月19日 | 北九州赤十字血液センター新築移転（八幡西区） |
| 4月5日 | 特別養護老人ホーム「大寿園」開設 |
| 昭和57年4月1日 | 支部第2次長期5ヶ年計画策定 日赤各地区へ災害救護車の配備始まる |
| 昭和59年10月9日 | 福岡赤十字病院奉仕団結成（団員21名） |
| 昭和60年4月 | 福岡県赤十字血液センター新築移転（筑紫野市） |
| 昭和62年7月31日 | 青少年赤十字メンバー1名をタイ・ネパールへ派遣 ～8月17日迄 |
| 10月16日 | ネパール保健衛生事業の指導のため、福岡赤十字看護専門学校江田柳子教師を派遣 ～昭和63年4月17日迄 |
| 昭和63年3月31日 | ベトナム難民収容施設「大法園」閉園 |
| 4月9日 | 今津赤十字病院落成 |
| 5月27日 | 日本赤十字社福岡県支部創設百周年赤十字大会を開催 |
| 9月10日 | 支部創設100周年記念「赤十字国際救護チャリティコンサート」を開催 |
| 10月31日 | 青少年赤十字再建40周年記念全国大会（静岡県・YMCA東山荘）に参加 ～11月2日迄 |
| 11月29日 | 赤十字奉仕団創立40周年記念全国奉仕活動研究大会（東京都）に参加 ～30日迄 |
| 平成元年7月24日 | 皇太子殿下 今津赤十字病院ご訪問 |
| 11月7日 | 福岡県日赤紺綬会創立30周年記念総会開催 |
| 8日 | 九州八県支部連合赤十字大会開催 |
| 12月16日 | 中国民航機ハイジャック救護のため福岡空港へ救護班派遣 |
| 平成2年6月13日 | 献血ルーム「はかた祇園」開所 |
| 平成3年3月31日 | 献血ルーム「くるめ1番街」開所 |
| 平成4年11月1日 | 第7回青少年赤十字福岡県大会（福岡市・中央市民センター） |
| 平成5年5月8日 | 統一ボランティアDAY'93開催（第1回） |
| 7月29日 | 全国赤十字老人ホーム連絡協議会（太宰府） ～31日迄 |
| 平成5年9月26日 | ホームヘルパー研修講師海外研修のため支部職員1名をアメリカ・カナダへ派遣 ～10月9日迄 |
| 平成6年11月16日 | 福岡県日赤紺綬会創立35周年記念総会（九州厚生年金会館） |
| 平成7年1月17日 | 兵庫県南部地震発生（阪神・淡路大震災） |
| 18日 | 神戸市へ第1次～第6次医療救護班延べ52名派遣 ～2月19日迄 |
| 10月16日 | 特別養護老人ホーム「大寿園」増改築工事竣工 |
| 平成8年2月8日 | 福岡赤十字病院腎センター落成 |
| 3月3日 | 中国紅十字会救急法交流団訪中 ～10日迄 |
| 5月30日 | 特別養護老人ホーム「やすらぎの郷」落成 |
| 6月13日 | 福岡空港ガルーダ・インドネシア航空機墜落事故（救護班24名派遣） |
| 平成9年3月4日 | 第6ブロック支部国際交流事業（フィリピン派遣） ～7日迄 |
| 5月29日 | 特別養護老人ホーム「豊寿園」落成 |
| 10月25日 | 日本赤十字社創立120周年記念国際救護チャリティーコンサート（アクロス福岡） |
| 平成10年11月1日 | 青少年赤十字創設75周年及び第9回青少年赤十字福岡県大会（大楠小学校） |
| 18日 | 日本赤十字社福岡県支部創設110周年・福岡県赤十字奉仕団創設50周年記念大会並びに 福岡県日赤紺綬会第39回総会（アクロス福岡） |
| 18日 | 地雷犠牲者救援チャリティー写真展（ソラリアプラザ 入場者11,351名） ～24日迄 |
| 19日 | 九州八県支部連合赤十字大会（電気ビル） |
| 12月6日 | 福岡県赤十字視察団（中国江蘇省派遣） ～12日迄 |
| 平成11年6月28日 | 地雷犠牲者救援チャリティー写真展（久留米市） |

| 年 月 日 | あ ゆ み |
|------------|--|
| 8月2日 | 地雷犠牲者救援チャリティ写真展（大野城市） ～6日迄 |
| 11月10日 | 福岡県日赤紺綬会第40回総会（電気ホール） |
| 12月24日 | 日本赤十字九州国際看護大学起工式 |
| 平成12年1月28日 | 地雷犠牲者救援チャリティ写真展（八幡東区） |
| 6月28日 | （財）福岡県市町村振興協会より受託の2級ホームヘルパー養成研修開始 |
| 12月21日 | 日本赤十字九州国際看護大学設置認可 |
| 平成13年3月29日 | 日本赤十字九州国際看護大学及び講堂棟合同竣工式 |
| 31日 | 福岡県と特別養護老人ホーム大寿園用地の売買契約書締結（平成13年7月4日登記済） |
| 4月5日 | 日本赤十字九州国際看護大学入学式（114名） |
| 5月22日 | 山田ホームヘルパー研修センター竣工 |
| 6月29日 | 久留米赤十字会館（仮称）起工式 |
| 平成14年3月8日 | 福岡赤十字看護専門学校閉校 |
| 4月28日 | 元日本赤十字社福岡県支部救護看護師ナイチンゲール記章受賞者高瀬松子氏葬儀 |
| 5月7日 | 日本赤十字社創立125周年記念日韓交流チャリティーコンサート ～10日迄 |
| 16日 | 日本赤十字社法制定50周年・日本赤十字社創立125周年記念全国赤十字大会 |
| 27日 | 日本赤十字九州国際看護大学学生奉仕団「オリーブ」結団式 |
| 6月17日 | 久留米赤十字会館定礎式 |
| 7月18日 | 久留米赤十字会館オープン記念式典（名誉副総裁寛仁親王妃信子殿下ご臨席） |
| 31日 | 2002アジア太平洋青少年赤十字研修会へ日本赤十字九州国際看護大学生及び職員3名を韓国ソウルへ派遣 ～8月5日迄 |
| 10月3日 | 韓国赤十字社職員及び政府公務員17名視察研修のため来福 ～4日迄 （支部・やすらぎの郷・福岡市役所） |
| 平成15年1月6日 | 大韓赤十字社テグ広域市支社青少年赤十字メンバー83名訪問 |
| 2月5日 | 大韓赤十字社インチョン支部青少年赤十字メンバー35名訪問 |
| 26日 | 甘木市立蜷城小学校青少年赤十字結成50周年記念式典 |
| 3月10日 | H.E.L.P in JAPAN 2003 開催（日本赤十字九州国際看護大学）～28日迄 |
| 20日 | 赤十字介護フォーラムin福岡（アクロス福岡） |
| 平成16年1月30日 | イラン南東部地震被災者救援事業のため福岡赤十字病院橋本看護師派遣～2月23日迄 |
| 3月8日 | 介護フォーラムin北九州開催（小倉北区） |
| 3月13日 | イラン南東部地震被災者救援事業のため福岡赤十字病院河口看護師派遣～3月30日迄 |
| 6月1日 | 福岡県赤十字血液センター天神中央出張所（イムズ8F）オープン |
| 7月1日 | 福岡県赤十字血液センター博多出張所（キャナルシティ）リニューアルオープン |
| 10月28日 | 新潟県中越地震災害救護のため医療救護班派遣（計2班・13名）～11月8日迄 |
| 10日 | 新潟県中越地震災害救護のため「こころのケア」指導員（2名）派遣 ～11月18日迄 |
| 12日 | 福岡県日赤紺綬会創立45周年記念総会（電気ホール） |
| 18日 | フィリピン赤十字社代表団（4名）受入 ～21日迄 |
| 27日 | 特別養護老人ホーム大寿園25周年式典（シーホーク） |
| 平成17年1月24日 | 中国紅十字会血液代表団（4名）受入 |
| 3月1日 | スマトラ島沖地震・津波被災者救援事業へ福岡赤十字病院川口看護師、山本主事派遣 （ERU第5班）～4月13日迄 |
| 20日 | 福岡県西方沖地震発生 福岡県支部医療救護班第1班（救護員7名）を玄界島へ派遣 |
| 21日 | 福岡市九電記念体育館内救護所にて医療救護活動（救護員総数106名） ～4月1日迄 |
| 21日 | 志賀島での巡回診療（救護員7名） |
| 21日 | 福岡市西区西浦にて巡回診療（救護員総数10名） ～23日迄 |
| 24日 | 福岡市西区西浦救護所にて医療救護活動（救護員総数41名） ～4月7日迄 |
| 21日 | こころのケアを実施 ～4月26日迄 （福岡市東区志賀島 3月23日迄 救護員総数3名、 九電記念体育館 4月26日迄 救護員総数45名） |
| 10月24日 | パキスタン北部地震被災者救援事業へ福岡赤十字病院橋本看護師派遣 ～12月18日迄 |
| 11月4日 | パキスタン北部地震被災者救援事業へ福岡赤十字病院川口看護師派遣 ～12月28日迄 |
| 12月6日 | スーダン紛争犠牲者支援事業へ福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～平成18年6月11日迄 |
| 12月20日 | パキスタン北部地震被災者救援事業へ日本赤十字九州国際看護大学石田助手派遣 ～平成18年2月16日 |
| 平成18年1月6日 | H.E.L.P in JAPAN 2006（日本赤十字九州国際看護大学） ～24日迄 |
| 8月3日 | プライマリー・ヘルスケア事業（フィリピン共和国）へ福岡赤十字病院西野看護師派遣 ～11月14日迄 |
| 11月30日 | 九州八県支部連合赤十字大会（福岡国際会議場） |
| 平成19年1月4日 | ケニア洪水救援事業へ福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～2月18日迄 |
| 7日 | dERU納車 |
| 12月5日 | 日本赤十字社九州血液センター竣工式（久留米市宮の陣） |
| 平成20年1月17日 | インドネシア海外保健医療支援事業へ福岡赤十字病院井上医師派遣 ～3月10日迄 |
| 18日 | H.E.L.P in JAPAN 2008（日本赤十字九州国際看護大学） ～3月7日迄 |

| 年 月 日 | あ ゆ み |
|------------|--|
| 6月5日 | インドネシア海外保健医療支援事業へ福岡赤十字病院久富看護師派遣 ～9月28日迄 |
| 12月4日 | 福岡県支部創設120周年記念事業「日本赤十字社所蔵名品展」開催（福岡県立美術館）～21日迄 |
| 6日 | 嘉麻赤十字病院70周年記念イベント（嘉麻市） |
| 16日 | 福岡県支部創設120周年記念赤十字大会・福岡県日赤紺綬会第49回総会（アクロス福岡） |
| 平成21年8月1日 | 小倉魚町出張所オープン記念式典 |
| 24日 | アフガニスタン・ミルワイズ地域病院支援に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～平成22年2月26日迄 |
| 10月22日 | 福岡赤十字病院起工式 |
| 11月7日 | 福岡赤十字青年奉仕団50周年記念事業（支部） |
| 18日 | 福岡県日赤紺綬会創立50周年記念総会（北九州市：ウェルシティ小倉） |
| 平成22年2月22日 | ハイチ大地震救援に福岡赤十字病院井上医師派遣 ～3月31日迄 |
| 4月20日 | ハイチ大地震救援に福岡赤十字病院川口看護師派遣 ～5月24日迄 |
| 6月15日 | 福岡赤十字病院立柱式 |
| 10日 | 日本赤十字九州国際看護大学開学10周年記念式典（看大・玄海ロイヤルホテル） |
| 11月3日 | パキスタン洪水災害救援事業に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～12月7日迄 |
| 平成23年1月8日 | ウガンダ病院支援事業に福岡赤十字病院井上医師派遣 ～5月1日迄 |
| 2月11日 | アフガニスタン・ミルワイズ地域病院支援に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～平成23年5月21日迄 |
| 3月11日 | 東日本大震災発生 |
| 12日 | 医療救護班を石巻赤十字病院（宮城県）へ派遣（救護員17名）～3月17日迄 石巻赤十字病院および宮城県内の避難所にて医療救護活動 |
| 21日 | 医療救護班を石巻赤十字病院（宮城県）へ派遣（計2班・救護員15名）～3月27日迄 |
| 22日 | 献血ルーム「おっしょい博多」オープニングセレモニー（博多バスターミナル） |
| 25日 | 医療救護班を石巻赤十字病院（宮城県）へ派遣（計9班・救護員62名）～5月17日迄 |
| 5月15日 | 東日本大震災救護活動等パネル展示（ソラリアプラザ）～19日迄 |
| 19日 | 医療救護班を石巻赤十字病院（宮城県）へ派遣（計2班・救護員12名）～6月6日迄 |
| 26日 | ハイチ大地震被災者支援事業に福岡赤十字病院橋本看護師派遣 ～平成24年1月23日迄 |
| 6月27日 | 東日本大震災救護活動等パネル展示（ソラリアプラザ）～29日迄 |
| 7月9日 | カンボジア救急法普及支援事業最終評価（岩井事業部長 カンボジア派遣）～16日迄 |
| 8月1日 | AKB48赤十字キャンペーン（福岡サンパレス） |
| 21日 | 東北復興応援フェア・トークショー（JR博多駅）～25日迄 |
| 27日 | 東北復興応援フェア・トークショー（JR小倉駅）～30日迄 |
| 29日 | H.E.L.P in JAPAN 2011（日本赤十字九州国際看護大学）～9月16日迄 |
| 平成24年8月25日 | 福岡県赤十字血液センター創立50周年記念式典（アクロス福岡） |
| 11月27日 | 新救護倉庫・公用車庫完成 |
| 平成25年2月26日 | 朝倉市立蜷城小学校JRC加盟60周年記念式典 |
| 21日 | 福岡赤十字病院竣工落成式 |
| 7月5日 | 第49回献血運動推進全国大会（福岡市 福岡国際会議場） |
| 平成26年7月12日 | ミャンマー紛争犠牲者救援事業に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～平成27年3月4日迄 |
| 8月22日 | ウガンダ北部医療支援事業に福岡赤十字病院井上医師派遣 ～11月30日迄 |
| 9月15日 | ウガンダ北部医療支援事業に福岡赤十字病院川口看護師派遣 ～平成27年2月8日迄 |
| 11月14日 | 福岡県日赤紺綬会第55周年記念総会（ヒルトン福岡シーホーク） |
| 12月17日 | 献血ルーム「くろさきクローバー」オープニングセレモニー |
| 平成27年7月3日 | ネパール地震救援・復興支援事業に福岡赤十字病院川口看護師派遣 ～7月31日迄 |
| 7日 | ネパール地震救援・復興支援事業に福岡赤十字病院井上医師派遣 ～8月5日迄 |
| 平成28年4月14日 | 熊本地震災害（余震）発生 |
| | 医療救護班を熊本県へ派遣（救護員8名）～4月15日迄 |
| 16日 | 熊本地震災害（本震）発生 |
| | 医療救護班を熊本県へ派遣（計7班・救護員47名）～6月2日迄 |
| 平成29年7月5日 | 九州北部豪雨発生 |
| 6日 | 医療救護班を東峰村宝珠山地区および小石原地区へ派遣（計2班・救護員14名）～7月7日迄 |
| 12日 | 朝倉市避難所2か所に夜間健康支援及びびこころのケア要員を述べ125名派遣 ～8月17日迄 |
| 11月24日 | バングラデシュ南部避難民救援事業のため福岡赤十字病院橋本看護師派遣 ～平成30年1月11日迄 |
| 12月6日 | バングラデシュ南部避難民救援事業のため福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～平成30年4月12日迄 |
| 平成30年6月22日 | 南スーダン紛争犠牲者支援事業に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～12月24日迄 |
| 7月5日 | 平成30年7月豪雨発生 |
| 9日 | 医療救護班を広島県へ派遣（計2班・救護員14名）～7月16日迄 |
| 10日 | バングラディッシュ南部避難民救援事業に福岡赤十字病院川口看護師派遣 ～10月15日迄 |
| 11月21日 | 福岡県支部創設130周年赤十字大会・福岡県日赤紺綬会第59回総会（ヒルトン福岡シーホーク） |
| 平成31年2月20日 | 福岡県支部創設130周年記念「国際救援チャリティコンサート」開催（アクロス福岡） |
| 4月22日 | 福岡赤十字病院音楽奉仕団（寺坂委員長）による赤十字トワイライトコンサート実施 |

| 年 月 日 | あ ゆ み |
|-----------|--|
| 令和元年8月27日 | 令和元年8月豪雨発生 |
| 29日 | 医療救護班を佐賀県へ派遣（計2班・救護員16名）～8月30日迄 |
| 9月16日 | ネパール・コミュニティ防災事業の成果確認のため、福岡県支部坂下主事派遣 ～9月27日迄 |
| 10月10日 | 令和元年度日赤紺綬・有功会会長協議会総会（ホテル日航福岡） |
| 11月16日 | 第16回青少年赤十字福岡県大会開催（支部・大楠小学校） |
| 12月18日 | 福岡県日赤紺綬会創立60周年記念総会（北九州市：リーガロイヤルホテル小倉） |
| 令和2年1月31日 | 久留米赤十字在宅サービスセンター事業廃止 |
| 2月20日 | 医療救護班第1班（救護員6名）を横浜港停泊中のクルーズ船へ新型コロナウイルス感染症対応のため派遣 ～2月22日迄 |
| 3月31日 | 久留米赤十字ケアプランセンター廃止 |
| 4月1日 | 地元放送局とタイアップによる広報活動を行う（令和2年度） |
| 4月20日 | 新型コロナウイルス感染症に係る宿泊療養施設の宿泊療養者の医療支援 救護員延べ12名派遣 ～5月6日迄 |
| 5月7日 | 緊急事態宣言発出に伴い学童支援のためのハートラルーム開設（～27日迄） |
| 7月3日 | 令和2年7月豪雨発生 |
| 5日 | 医療救護班を熊本県へ派遣（計5班・救護員31名）～7月23日迄 |
| 令和3年2月28日 | 赤十字防災・献血キャンペーン実施（博多口駅前広場） |
| 3月31日 | 久留米赤十字会館温水プール・フィットネス事業廃止 |
| 9月6日 | 献血ルーム「天神西通り出張所」オープニングセレモニー |
| 10月1日 | オンライン講習の運用開始 |
| 10月26日 | ハイチ地震救援事業に福岡赤十字病院川口看護師派遣 ～12月5日迄 |
| 令和4年3月2日 | 「ウクライナ人道危機救援金」受付開始 県内各地にてボランティア及び職員による街頭募金実施 |
| 4月4日 | パレスチナ赤新月社医療支援事業に福岡赤十字病院前澤看護師派遣 ～9月30日迄 |
| 10月15日 | バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業に福岡赤十字病院橋本看護師派遣 ～令和5年4月13日迄 |
| 11月19日 | 青少年赤十字創設100周年記念大会「第17回青少年赤十字福岡県大会」（大楠小学校） |
| 令和5年7月3日 | パレスチナ赤新月社医療支援事業に福岡赤十字病院松田医師派遣 ～10月30日迄 |
| 7月7日 | 令和5年7月豪雨発生 |
| 15日 | 救護員（看護師・主事）を東峰村へ被災者や現地で活動するボランティアの健康観察のため派遣 （救護員22名）～7月29日迄 |
| 令和6年1月1日 | 能登半島地震災害発生 |
| 4日 | 医療救護班を日本赤十字社石川県支部（石川県）へ派遣（救護員46名） ～2月5日迄 石川県輪島市・七尾市内の避難所にて医療救護活動 |
| 30日 | 日赤災害医療コーディネートチームを日本赤十字社石川県支部（石川県）へ派遣 （救護員3名） ～2月3日迄 石川県支部（災害救護実施対策本部）で医療救護班の派遣調整 |
| 2月3日 | バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業に福岡赤十字病院橋本看護師派遣 ～2月20日迄 |
| 7日 | こころのケア班を日本赤十字社石川県支部（石川県）へ派遣（救護員4名） ～2月13日迄 石川県七尾市内の自治体職員に対するこころのケア活動 |

令和 5 年度 事業報告書

令和 6 年 5 月 13 日発行

発行 日本赤十字社福岡県支部
〒815-8503 福岡市南区大楠 3-1-1
T E L 092 (523) 1171 (代表)
F A X 092 (521) 2552
H P <https://www.jrc.or.jp/chapter/fukuoka/>